

いじめや不登校を未然に防ぐための 校種間連携の在り方



岡山県総合教育センター

INDEX

ブックレット作成に当たって

	ページ
1 いじめや不登校の未然防止と保幼小中連携	2
2 ピアサポートとは	4
3 中学校区へのピアサポート・プログラム導入に向けて	6
4 校種間連携における課題	7
5 ブックレットの活用の仕方	8

保幼小中連携モデル

1 ピアサポートで培いたい能力と発達段階に即した評価項目	14
2 9年間を見通したピアサポート・プログラム	18
3 実践事例	
実践Ⅰ つながる ―教職員の核づくり―	24
実践Ⅱ 巻き込む ―幼小連携―	27
単元名「来年まってるからね」	
実践Ⅲ あるものを生かす ―小中連携―	44
活動名「ようこそ後輩 ①陸上サポート」	47
活動名「ようこそ後輩 ②出前授業」	53
活動名「ようこそ後輩 ③紙上相談」	57
4 実態把握のためのアンケート	61
5 ピアサポート実践資料	67
6 参考・引用文献	68

ブックレット作成に当たって

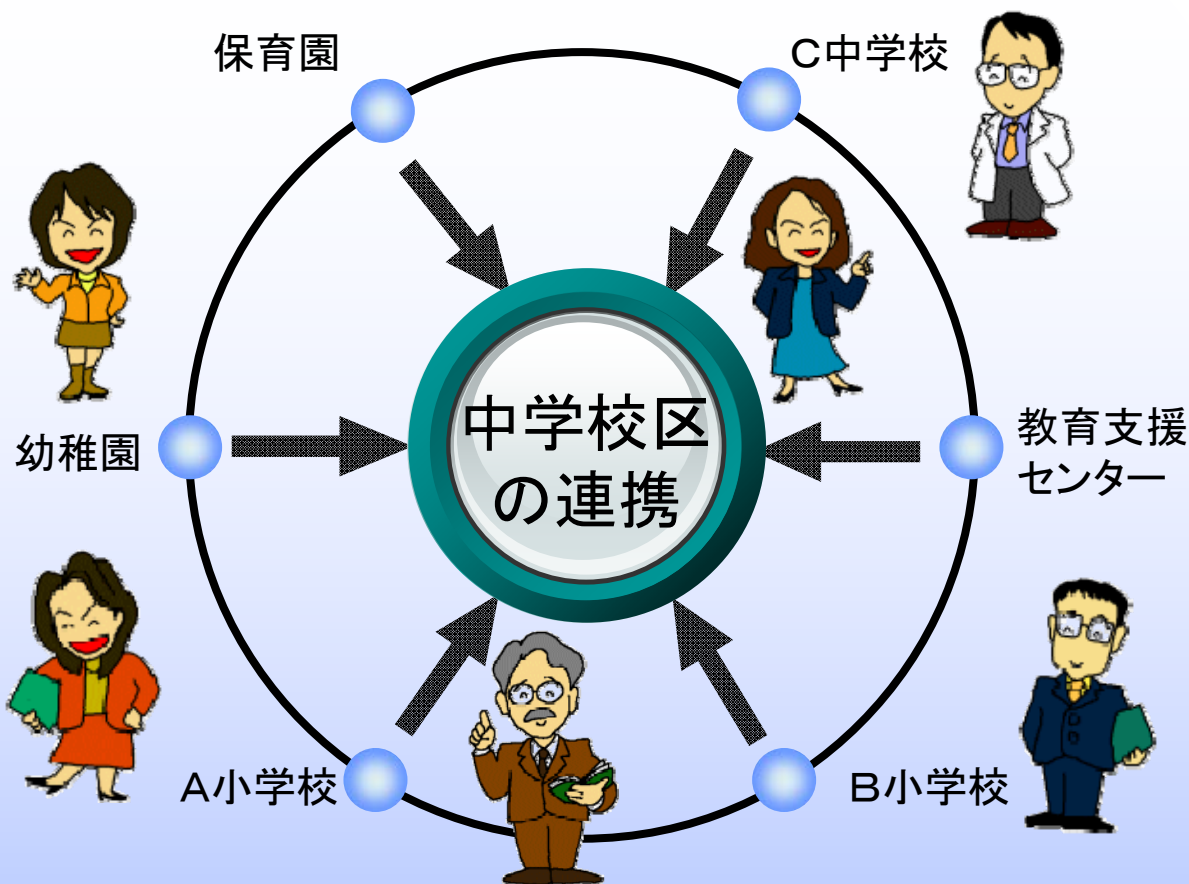
このブックレットでは、ピアサポートの手法を生かし、校種間における行動連携を促進するための具体的な活動とその方法を分かりやすく示しています。



1 いじめや不登校の未然防止と保幼小中連携

いじめや不登校の問題は生徒指導上の大きな課題であり、これまで課題克服のために様々な取り組みがなされてきました。中学校第1学年時では、いじめと不登校が急激に増加する傾向（中1ギャップ）にあり、岡山県においても同様の傾向が見られます。また、小学校第1学年時においては初めての集団生活になじめず授業中に歩き回ったり、私語が絶えず授業が成り立たなかったりする状態が継続的に続くことも、大きな課題と言えます。特に中1ギャップでは新しい環境に適応しにくくなっている要因として、それまでの親しい友人、教職員等の支えがなくなったり、新しい人間関係がうまくつくれなかったりして、他者とのかかわりの中で、自分の存在価値に自信が持てず、自己有用感が失われていることが指摘されています。





校種間のギャップを小さくするためには、上級学校に対する不安感を、期待感や安心感に変える取り組みが必要となります。また、中学校で不登校になる生徒の約半数が、小学校時代にその傾向を示したり、実際に不登校を経験したりしていることが分かっており、一人一人の児童生徒について、小学校での様子や指導、及び対応を把握した上で、中学校での指導や対応を検討することが求められます。そのためには定期的に中学校区単位で情報交換の場をもち、個人ファイルや連携シート等を活用したりするなどの情報連携システムの確立が必要です。さらに、教員による出前授業や交流活動、及び合同活動等の実践によって、校種間の緊密な連携が図られれば、上級学校に対する不安感を軽減することにつながるでしょう。



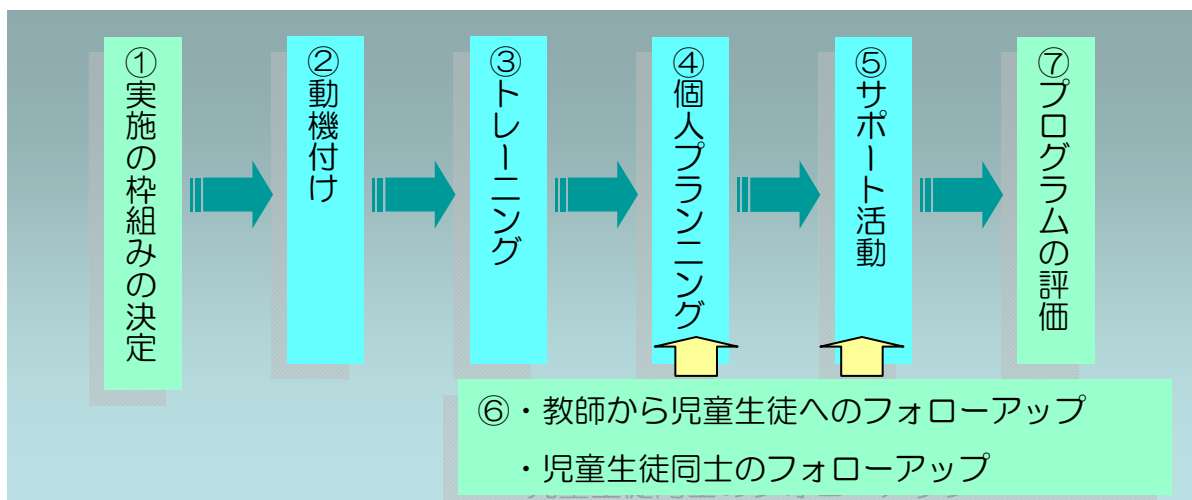
2 ピアサポートとは

ピア (peer) とは「仲間」、サポート (support) とは「支援」の意味です。ピアサポートとは社会性や対人関係の育成を保障できる場を学校や地域社会の中に意図的に作り、援助のためのトレーニングを受けた児童生徒たちが、悩んだり困ったりしている仲間を支援するというものです。ここでいうサポート活動は、これまでの友達としての好意による仲間への支援だけでなく、より自主的で意図的、計画的に、より高度で幅広い支援を行おうとしているものです。いつでも、どこでも仲間（ピア）をサポートする、サポートし合えるような仲間関係を自分たちの力でつくり上げ、思いやりにあふれた学校環境をつくっていくのがピアサポートです。そしてそういう活動を通して「自分は必要とされている」「自分は誰かの役に立っている」といった自己有用感を育てていくことにつながり、それがやがて思いやりのある学校風土を築いていくと考えています。そのことが、いじめや不登校などを未然に予防していくことにつながっていくと考えます。



ピアサポート・プログラムでは教育課程上の位置付けなど実施の枠組みを決定した後、サポート活動に必要なスキルを身に付けるために様々な「トレーニング」を行い、どのようなサポート活動を行うかを一人一人が「プランニング」をします。そして、実際に「サポート活動」を行った後、実施したプログラムの効果について評価していきます。また、「個人プランニング」や「サポート活動」については、教師や児童生徒相互による「フォローアップ」を丁寧に行います。この「トレーニング」「プランニング」「サポート活動」及び「フォローアップ」までの一連の活動をまとめてピアサポート・プログラムと言います。

■ピアサポート・プログラムの流れ



ピアサポート・プログラムの構造（栗原，2006）改変

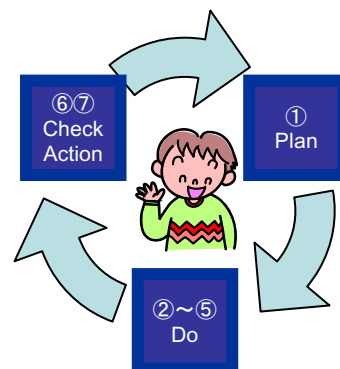
実施の枠組み

- 各教科
 - 総合的な学習の時間
 - 特別活動
 - 道徳
- など学校の実態に沿って組み合わせる。



フォローアップとは

出した指示，課されている役割などについて，その達成状況や進捗状況，結果などを検証・分析し，さらなる指示や修正，アドバイスを言うことを言います。



この一連の活動を，PDCAサイクルで繰り返し行うことで，子どもたちの自己有用感が少しずつ育まれていく。

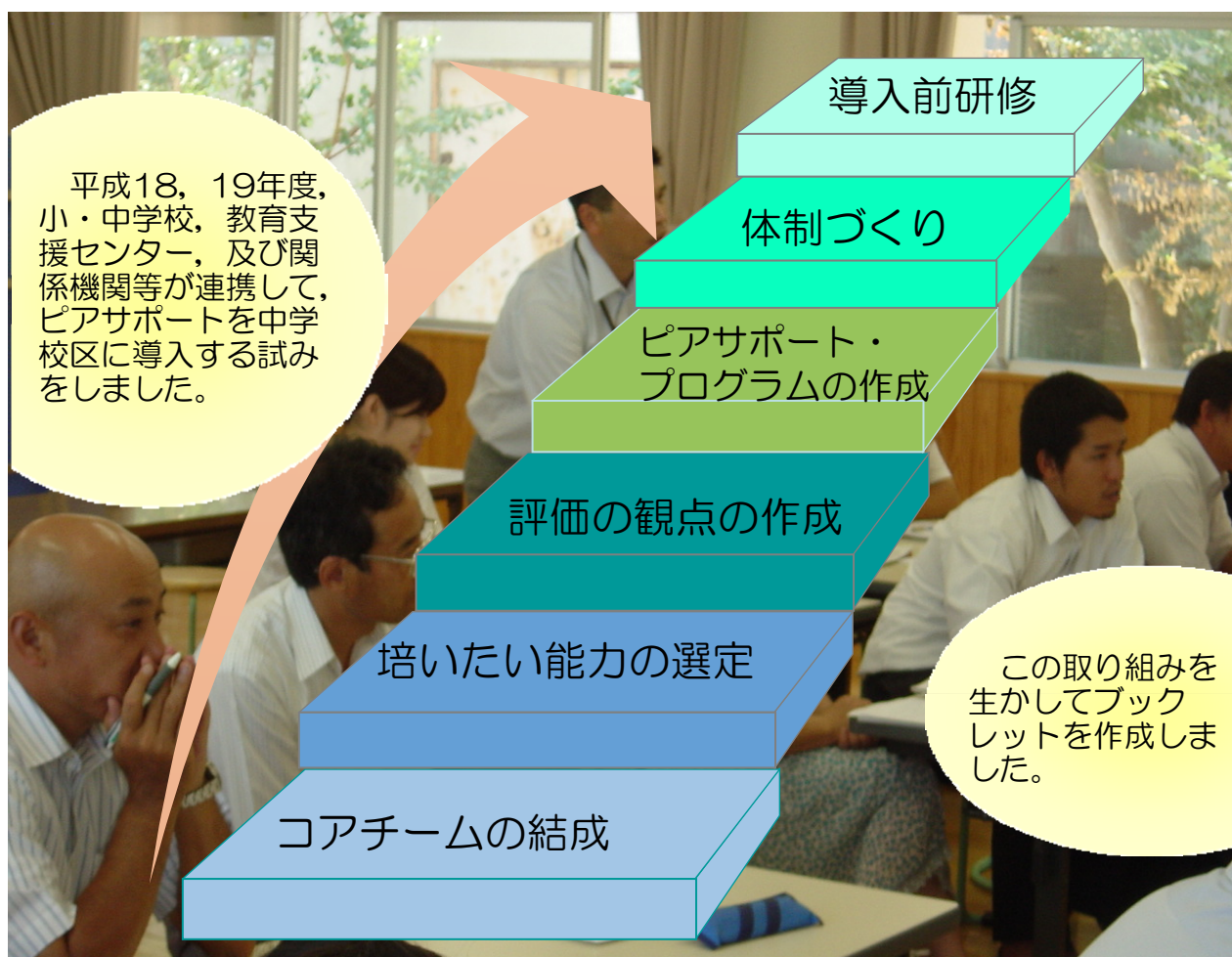
トレーニングの選定 ねらいに応じて選びましょう。

参考となる資料 p.68

ねらいに応じたトレーニングの例		トレーニングの理論的背景
自己理解	自分の対人関係の特徴を知る，プラスのストロークを贈る	構成的グループ・エンカウンター
他者理解	友達について知る，友達の良さについて知る	構成的グループ・エンカウンター
自己防衛	感情のコントロールの仕方，ストレスとの上手な付き合い方，上手な断り方	アンガーマネジメント教育 ストレスマネジメント教育
上手な聴き方	積極的な話の聴き方，質問の仕方，気持ちを读む	ソーシャルスキル教育
上手な話し方	仲間の誘い方，仲間への入り方，上手な指示の出し方，上手な頼み方	ソーシャルスキル教育
問題解決の仕方	自分の考えを伝える・解決策を考える，対立の解消	ソーシャルスキル教育 グループワーク・トレーニング

「すぐ始められるピアサポート・指導案&シート集（森川，菱田，2002）改変

3 中学校区へのピアサポート・プログラム導入に向けて



中学校区にピアサポート・プログラムを導入していくために様々な取り組みを段階的に実施してきました。「コアチームの結成」「ピアサポートで培いたい能力の選定」「評価の観点の作成」「ピアサポート・プログラムの作成」「体制づくり」「導入前研修」の六つの取り組みです。コアチームでは月一回の会を持ち、導入に向けての取り組みを検討していきました。こうした話し合いの中で幼小中合同の研修会が実現できた訳です。

この取り組みの成果をまとめてブックレットを作成しました。

*詳しくは岡山県総合教育センター研究紀要第1号
「いじめや不登校を未然に防ぐためのピアサポートの導入」pp.71-96

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/h19/07-02.pdf>

平成20, 21年度には, 中学校区での連携を考えている学校で, ブックレットを活用してもらい, 更に新たなアイデアを加えています。

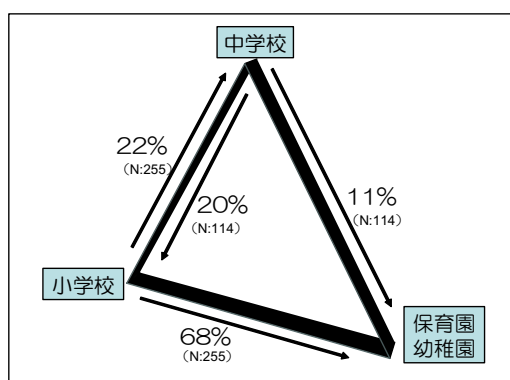


4 校種間連携における課題

岡山県内での「校種間連携」の実態を把握するため、県内全域（岡山市を除く）の小学校及び中学校の生徒指導または教育相談担当者（小学校255名，中学校115名，計370名）を対象に、各校の実態と担当者の意識についてアンケート調査を実施しました。その中で、特に行動連携に注目してみると次のような実態が見られました。

●校種間における交流活動や合同活動の実施について

小学校を対象としたアンケートでは、保幼における交流活動や合同活動実施校は全体の68%で、中学校との交流活動実施校（22%）の3倍以上であることが分かりました。中学校を対象としたアンケートでも小中との交流活動実施校は全体の20%で同様の状況がうかがえました。保幼小間に比べ、小中，保幼中での交流活動や合同活動はまだ実施率が低いです。



（交流活動や合同活動の実施状況）

（校種間で実施している交流活動・合同活動）

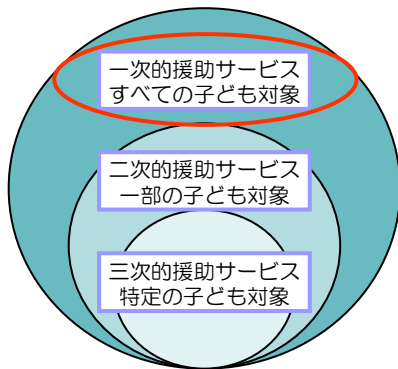
	小学校	中学校
保育園・幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生体験入学 ・合同運動会 ・学習発表会 ・芋掘りなどの収穫 ・絵本の読み聞かせ ・給食 ・祭り ・遠足・水泳 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科〔家庭分野〕の保育園訪問 ・運動会 ・職場体験 ・保育園環境整備 ・絵本の読み聞かせ ・芋掘りなどの収穫 ・合同文化発表会 ・吹奏楽部による訪問
小学校		<ul style="list-style-type: none"> ・合同運動会 ・合同学芸会 ・体験入学 ・読み聞かせ ・給食 ・遠足・遊び活動 ・部活動による交流活動 ・出前授業

●交流活動や合同活動の実施の妨げについて

アンケートで挙げられた課題について、ブックレットでは次のような工夫をしました。

校種間連携における課題	ブックレットでの工夫	参照ページ
① 職務の多忙化で時間的余裕がない	<p>ア 授業を展開する際の手引き書として活用できるよう、板書計画や教師の主な発問などを入れる。</p> <p>イ 実態把握のためのアンケート結果を入力するだけで、個人的能力と社会的能力のバランスが一目で分かる集計フォームを作成する。</p>	p.11 pp.61-62
② 教育課程にうまく組み込むことができない	<p>ウ 教育課程の中に位置付けることが可能であることを示し、単元構想の中でも、ピアサポート・プログラムの流れが分かるようにする。</p> <p>エ 現在行っている活動を洗い出す。</p> <p>オ 9年間を見通してピアサポートで培いたい力や評価の観点、一目で分かるように一覧表に示す。</p> <p>カ 学習指導案に示している評価の観点、培いたい力のどこにつながっているのかが分かるように示す。</p>	p.29 p.18 p.10
③ 職場にその体制や雰囲気がない	<p>キ 校種間における連携の意義を明確に示す。</p> <p>ク 校種間で交流の場を意図的に設けた例を示す。</p>	pp.2-3, p.19 pp.24-25
④ 具体的な内容や方法が分からない	<p>ケ 連携をする際にそれぞれの校種で配慮すべきことや教師の具体的な活動とその方法を、分かりやすく示す。</p> <p>コ 校種間で連携を図った実践事例や使用したワークシート、及び資料等を紹介することで、具体的な内容や方法を分かりやすく示す。</p>	p.8 p.10

5 ブックレットの活用の仕方



三段階の心理教育的援助サービス
学校心理士認定委員会（2002）改変

このブックレットは、いじめや不登校を未然に防ぐために、すべての子どもたちを対象に一次的援助サービスを行うための資料として活用できることを目指しています。一次的援助サービスとは「すべての子ども」の援助ニーズに応じるものであり、学校生活への適応や友達をつくるスキルの開発など開発的、予防的な活動としてとらえています。いじめや不登校の起きない学級づくりをしていくためには、人とかかわる際の基本的なルールやマナー、相手を傷付けずに自分の意見を主張するスキルなどを身に付ける必要があります。また、そうしたスキルを生かせる場を意図的、計画的に設定し、小学校の低学年から社会性や対人関係能力を段階的に系統立てて育てていくことも大切です。

- ★ 校種間で連携をする際の、**校内研修**に使える。
- ★ ピアサポートを授業の中で展開していく際の**手引き書**として活用できる。

このブックレットの特徴

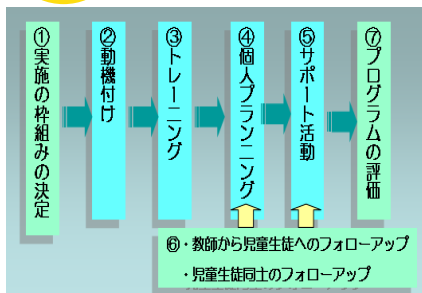
その①

連携をする際の配慮や、教師の具体的な動きを登場人物が解説します。



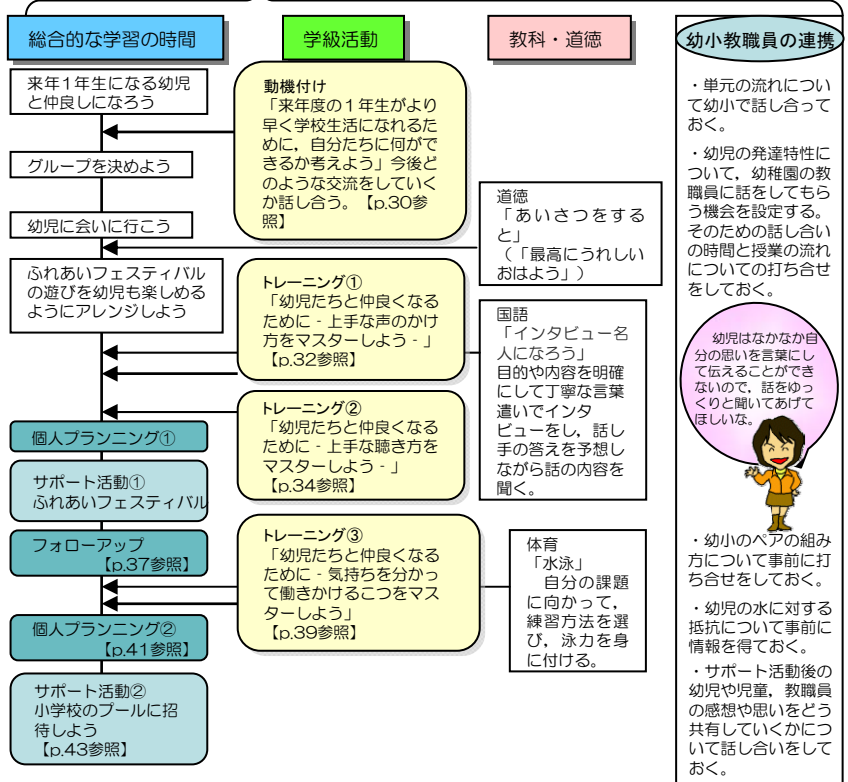
その②

単元構想の中でも、ピアサポート・プログラムの流れが分かるようにしています。(p.29)



単元構想表「来年まってるからねー幼児と仲良くなろう①」

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
流れ	園児と仲良くなろう① 園児をよむ ふれあいフェスティバル ふれあいフェスティバルに招待しよう			園児と仲良くなろう② 小学校のプールに招待しよう			小学校のくらしを紹介しよう			園児と仲良くなろう		



この単元では、総合的な学習の時間や学級活動及び各教科等の中で実施しています。

その③

9年間を見通してピアサポートで培いたい能力が、一目で分かるような一覧表になっています。(p.14~)

ピアサポートで培いたい能力と
発達段階に即した評価項目 (一部)

9年間を見通した内容 (一部)

培いたい能力

培いたい能力		能力の具体化
1 個人的能力	① 自己認識 (ア) 自己を理解し、肯定的に受け止める力	自分を知ることができる 他者とのかかわりの中で、自分を肯定的に受け止めること
	② セルフコントロール (イ) 感情を認知し表現する力	様々な感情があることに気付く 自分の感情を言葉等で表現する
	(ウ) 怒り等の感情をコントロールする力	自分が誰に(何に)対して、 を持っていたかに気付くこと 本当は自分がどうしたかった感情をコントロールする方法 自分の感情をコントロールする

内容に即した評価項目	
小(中学年)	小(高学年)
友達とのかかわりの中で今まで気付かなかった新しい自分の良さに気付くことができる。	今の自分を振り返り、文章や言葉で自分自身と対話することができる。
自分の感情に気づき、感情を色や形、絵や簡単な言葉等で表現することができる。	自分の感情に気づき、表情や態度及び言葉で表現することができる。
自分の感情に気づき、本当はどうしたかったのかに気付くことができる。	感情をコントロールする方法を知ることができる。

その④

学習指導案に示している評価の観点^④が、培いたい力のどこにつながっているのかが分かるように表記しています。

2-④-(オ)
の力をつけたい

学習指導案の評価
の観点はこれだ！

		内容に即した評価項目	
		小(高学年)	中学校
<p>2</p> <p>社会的 能力</p> <p>④ 対人関係形成能力</p>	(オ) 聴く・話す力	相手の立場に立って、聴いたり話したりすることができる。	相手の気持ちを大事にしながらも、自分の考えや気持ちを率直に話すことができる。また相手が一番言いたいことは何なのかを考えながら相手の話ることができる。
	(カ) 他者を理解する力	<p>小学校高学年ではここまでできればいいな</p>	相手の表情や様子から、反達の気持ちを理解することができる。また、相手の様子にあった思いやりのある言葉かけや接し方ができる。
	(キ) 社会に適応する力	相手について分からないことやもっと知りたいことについて尋ねることができる。	
	(オ) 責任を果たす力	クラスで何かに取り組むときに声をかけ合いながら取り組むことができる。	クラスや学年で何かに取り組むときに声をかけ合いながら取り組むことができる。

相手の立場に立って聴くことができているか
〔2-④-(オ)〕

相手の立場に立って聴くことができるか
〔2-④-(オ)〕

その⑤

校種間の連携を図った実践事例と、その中で使用したワークシートや資料等を紹介しています。

不安や疑問リストシート

陸上サポート個人プランニングシート

あなたが6年生のころの気持ちを思い出してみよう

不安や疑問だったこと	ドキドキ度	相談したいこと

・ドキドキ度は100点満点として、どれくらい不安だったかを10点きざみで付けてください。
 ・一番相談に乗ってもらいたい項目に○を付けましょう。

いよいよ小学生たちに陸上競技の実技サポートを行います。サポートが上手くできるように1~4についてまとめ、準備をしっかりとしましょう。

- 1 あなたが小学生に教える種目は？
- 2 その種目の基本や、記録を伸ばすためのポイントは？
- 3 おそらく緊張している小学生に対して、分かりやすく説明するためには、どんなことに注意して話したらいいだろう？
- 4 あなたは今回、どのような気持ちで小学生に接しようと思いますか？

その⑥

授業を展開する際の手引き書として活用できるよう**板書計画**や**教師の主な発問**などを入れています。

板書計画の例

めあて 幼児と仲良くなるために - 上手な聞き方をマスターしよう -

話をしっかり聞いてもらった時のことを思い出してみよう

こんな時どうする？

【場面1】ふれあいフェスティバルで、幼児を案内することになりました。しかしペアのB男君がとつぜん「家に帰りたい」と泣き出してしまいました。さてあなただったら、こんな時どんなふうに話を聴きますか？

◆B男君はどんな気持ちなのだろう

・友だちとけんかして家に帰ってきた時に、お母さんが、うなずきながら最後まで話を聞いてくれたので、気持ちが楽になった。

・知らない人ばかりなので寂しい
・これからどんなことをするの？

ポイント

- ①体を向ける
- ②話す人を見る
- ③相づちを打つ
- ④最後まで話を聴く
- ⑤分からないことは質問する
- ⑥本人の気持ちを聴く

●主な発問

	学習活動	教師の支援と留意点
導入	①本時のめあてを知る	・前時を振り返り、本時では来年1年生になる幼児と仲良くなるために、上手な聞き方のポイントを学習することを知る。
展開	②話をしっかり聞いてもらった時の気持ちを考える	・人に話を聞いてもらった時、どんな気持ちになったか思い出す。 ●人に話を聞いてもらった時、どんな気持ちになったかな。 ●相手が気持ちよく話せる上手な聞き方を考えてみましょう。

教師の主な発問
「人に話を聞いてもらった時、どんな気持ちになったかな」

その⑦

ピアサポート・プログラムの分類を**絵マーク**で分かりやすく示しています。(p.21)

	サポート活動	◆幼児と仲良くなろう①	◆幼児と仲良くなろう②	◆小学校のくらしを紹介しよう
第5学年	トレーニング	ア 上手な話し方1 (聴く・話す力) イ 上手な聞き方1 (聴く・話す力) ウ 気持ちを分かって働きかける (社会に適応する力)	ア 上手な聞き方2 (聴く・話す力) イ 上手な話し方2 (聴く・話す力) ウ あたたかい言葉かけする力)	
第6学年	サポート活動	◆協力して縦割り班活動を成功させよう	◆みんなに伝えよう 世界中の〇〇っ子	
第6学年	トレーニング	ア 上手な聞き方 (聴く・話す力) イ あたたかい言葉かけ (社会に適応する力) ウ 気持ちを分かって働きかける (社会に適応する力)		
児童会	サポート活動	◆虫歯菌をやっつけよう (保健委員会)	◆みんなで盛り上げよう運動会 (代表委員会)	
児童会	トレーニング	ア 上手な話し方 (聴く・話す力) イ 上手な聞き方 (聴く・話す力) ウ あたたかい言葉かけ (社会に適応する力)		

ピアサポート・プログラ

	仲間づくり	誰もが
	お兄さん お姉さん	新入生
	グループ リーダー	学校・
	指導・助言	学校
	学習支援	仲間同
	相談活動	スーパ

は異校種でのサポート活動

は校内での異学年によるサポート活動

その⑧

集計フォームにアンケートの結果を入力すると、子どもの個人的能力と社会的能力の実態が一目で分かる**グラフが作成**できます。

ピアサポート実態把握のためのアンケートと集計フォーム

アンケートは小学校低学年用、中学年用、高学年用、中学校用があります。必要なものを下記から選びクリックして下さい。

低学年用 中学年用 高学年用 中学生用

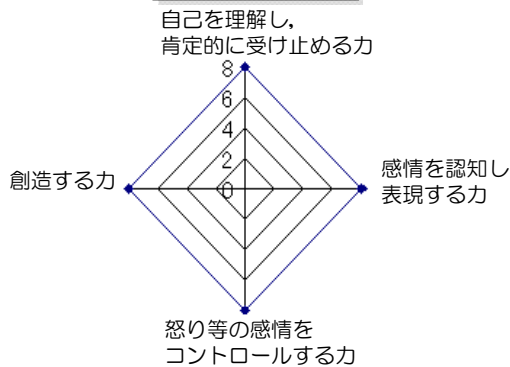
集計フォームをダウンロードしたい場合は右の「集計フォーム」をクリックして下さい。

集計フォーム

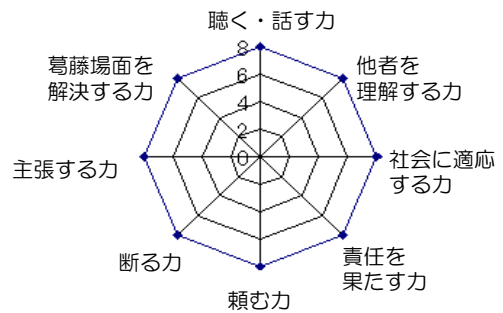
岡山県総合教育センターのWebページからダウンロードできます。

- ・アンケート用紙
- ・集計フォーム

個人的能力

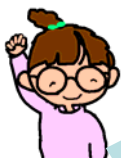


社会的能力



その⑨

ピアサポートについて更に学びたい方や各校での校内研修に、活用していただける情報を掲載しています。(p.26)



H20年度の生徒指導・教育相談研修講座(発展コース)の「ピアサポート」グループの研修内容です。研修内容は受講者のニーズに添って計画していきます。受講者の方が学校で実践できるように自校に合った企画書を作成するところまでを目指しています。

トレーニングについては、事前に教師が研修をしておくといいですね。

- ★岡山県総合教育センターの生徒指導・教育相談研修講座(発展コース)
- ★岡山県総合教育センターのサポートキャラバン事業

など活用してみませんか。

第3回

- 1 アイスブレイキングと2回目の振り返り
- 2 トレーニングの実際
 - ・「上手な誘い方」
 - ・「上手な話し方」
 - ・「気持ちと内容に傾聴するコミュニケーションの仕方」
 - ・「けんかの仲裁」
- 3 プログラム導入のための企画書づくり
- 4 午後の振り返り



保幼小中連携モデル

ここからは保幼小中の連携を図りながら実施した実践事例を掲載しています。動機付けからサポート活動までの一連の流れに沿って紹介しています。

教職員の核づくりでは、校種間連携を進めていくために、教職員がつながるアイデアを紹介します。

小学校の実践事例では、小学校第5学年による幼児へのピアサポートを紹介しています。総合的な学習や特別活動、その他各教科との関連を持たせながら単元構想を組んでいます。

中学校の実践事例では、生徒会活動や部活動での、小学生へのピアサポートを紹介しています。



1 ピアサポートで培いたい能力と発達段階に即した評価項目

■ピアサポートに必要な力

ピアサポートを進めていくには、個人的能力や社会的能力の他に、それぞれのサポーターが実際に
行うサポート活動に応じて必要な技能や知識を学習して身に付けることが大切です。

例えば、車いすを使っている仲間をサポートしようとしたら、車いすの操作の仕方や介助の仕方、
その仲間に対する話しかけ方などを事前に学習するのです。数学の苦手な仲間と一緒に勉強しよう
としたら、勉強の仕方や説明の仕方、言葉かけで留意することなどを事前に確認します。障害のある仲
間の友達になろうとしたら、その障害の特徴や配慮すべきことについて学習し、そのかわり方につ
いて実際に練習してみます。

●身に付けさせたい力

学校不適應の問題と、今後求
められる子どもの姿に共通して
必要とされるのが、社会性、と
りわけ対人関係形成能力の育成
ですよね。そうした力を日常の
対人的なやりとりの中で生かし、
友達から認められ受け入れられ
る場を意図的に設けることが必
要だと思うの。

●発達段階に即して

今までは、対人関係を築く力を身
に付けさせたいと思っていても、具
体的にどんな力を、どこまで身に付
けさせたいのかあいまいで、次
の学年へつなげていくという意識も
低かったと思うんです。ですからそ
れぞれの能力について、発達段階に
即した評価項目を作成していく必要
があると思うんですよ。



培いたい能力		能力の具体化
1 個 人 的 能 力	① 自己認識 (ア) 自己を理解し、肯定的に受け止める力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を知ることができる ・他者とのかわりの中で、自分の良さに気付くことができる ・自分を肯定的に受け止めることができる
	② セルフ・コントロール (イ) 感情を認知し表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感情があることに気付くことができる ・自分の感情を言葉等で表現することができる
	(ウ) 怒り等の感情をコントロールする力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が誰に(何に)対して、どのような感情(イライラ・腹が立つ)を持っているかに気付くことができる ・本当は自分がどうしたかったのかに気付くことができる ・感情をコントロールする方法を知ることができる ・自分の感情をコントロールすることができる
	③ キャリア開発能力 (エ) 創造する力	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢について話することができる ・自分の好きなことや得意なことを楽しむことができる ・家庭や社会に貢献することができる

9年間でどんな子どもを育てていくかしっかり話し合い、共通の目標を持ちましょう。



中学校区に属する幾つかの小学校間で児童の個人的能力や社会的能力の育成度に差があったのでは、中学校入学後の指導の積み上げが図りにくく、9年間の系統性に欠けてしまう訳です。そこで、目指す子ども像や培いたい力について何度も話し合いを重ねました。

●9年間を見通して

今、自分が担当している学年でのことだけを見ていくのではなく、9年間を見通して、今のこの子どもたちにどんな力をどこまで育てていけば良いのか、そこまでしっかり考えていかなければならないですね。

●幼稚園も巻き込む

将来的には幼稚園も含めた12年間を見通して、どのような子どもたちの育成を目指していくのかしっかり話し合っていくことが大切だと思うわ。



内容に即した評価項目

小（低学年）	小（中学年）	小（高学年）	中学校
自分の好きなものや興味があることを絵や言葉で表現することができる。	友達とのかかわりの中で今まで気付かなかった新しい自分の良さに気付くことができる。	今の自分を振り返り、文章や言葉で自分自身と対話することができる。	周りの友達とのかかわりを通して自分を知り、ありのままの自分を肯定的に受け止めることができる。
様々な感情があることに気づき、感情を色や形、絵等で表現することができる。	自分の感情に気づき、感情を色や形、絵や簡単な言葉等で表現することができる。	自分の感情に気づき、表情や態度及び言葉で表現することができる。	自分の感情に気づき、より細やかな表情や態度及び言葉で表現することができる。
自分が誰に（何に）対して、どのような感情（イライラ・腹が立つ等）をもっていたかに気付くことができる。	自分の感情に気づき、本当はどうしたかったのかに気付くことができる。	感情をコントロールする方法を知ることができる。	時と場に応じて自分の感情をコントロールすることができる。
自分の好きなことや得意なことを楽しむことができる。	自分の好きなことや得意なことを楽しむことができる。	家庭や社会に貢献することができる。	家庭や社会に貢献することができる。

1 ピアサポートで培いたい能力と発達段階に即した評価項目

培いたい能力		能力の具体化	
2 社 会 的 能 力	④ 対人関係形成能力	(オ) 聴く・話す力	<ul style="list-style-type: none"> ・その場にふさわしいあいさつや自己紹介をすることができる ・相手の話を最後まで聴くことができる ・相手の顔を見ながら話することができる ・相手の話を相づち（「うん、うん」「ふーん」等）を打ちながら聴くことができる ・自分が思ったことや感じたことを相手に話すことができる ・相手の話を理解しようとしながら聴くことができる
		(カ) 他者を理解する力	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をして、友達の好きなものや興味があることを知ることができる ・友達の良いところやがんばっていること等を知ることができる ・友達の表情や様子から、友達の気持ちを考えることができる ・友達の気持ちを理解することができる
		(キ) 社会に適応する力	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を遊びに誘ったり、自分から「入れてよ」と言って、遊びのグループに入ったりすることができる ・新しい仲間を受け入れることができたり、仲良くなった人と関係を維持したりすることができる ・クラスの友達と力を合わせて物事をやり遂げることができる ・友達が何かやり遂げた時、一緒に喜ぶことができる ・友達の悩みや頼みごとを親身になって考えることができる
		(ク) 責任を果たす力	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中でルールを守ることができる ・クラスの当番活動や係活動の役割を果たすことができる ・自分の役割を理解し、きちんと果たすことができる ・引き受けたら最後までやり遂げることができる ・自分は何ができるかを考えて行動することができる
	⑤ 問題解決能力	(ケ) 頼む力	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時に友達や先生に支援を求めることができる ・頼み事の原因を言うことができる。 ・相手にどうしてほしいかをはっきりさせて頼むことができる ・相手の都合を考えてから頼むことができる ・頼み事を聞き入れてもらった時の自分の気持ちを伝えることができる
		(コ) 断る力	<ul style="list-style-type: none"> ・断る時には「ごめんね」等の謝る言葉を言ってから断ることができる ・断る理由を述べることができる ・はっきり断りを表明することができる ・代わりの意見を言うことができる
		(サ) 主張する力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを素直に表すことができる ・相手の気持ちを大事にししながら自分の考えや意見を伝えることができる
		(シ) 葛藤場面を解決する力	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友達を見ると、「どうしたの？」と声をかけることができる ・何に困っているかを尋ね、解決する方法を一緒に考えることができる ・周りの人の立場を考えて解決に導くことができる

内容に即した評価項目			
小（低学年）	小（中学年）	小（高学年）	中学校
基本的なあいさつや自己紹介ができ、相手の顔を見ながら話したり聞いたりすることができる。	状況に応じたあいさつができる。また相手の話を最後まで聞くことができるとともに相づちを打ちながら聞くことができる。	相手の立場に立って、聴いたり話したりすることができる。	相手の気持ちを大事にしながらも、自分の考えや気持ちを率直に話すことができる。また相手が一番言いたいことは何なのかを考えながら相手の話を聴くことができる。
友達の好きなことやしたいことを聞くことができる。また、友達について知っていることを話すことができる。	友達とのかかわりの中で、今まで気付かなかった友達の良さに気付くことができる。	友達の表情や様子から、友達の気持ちを考えることができる。また、相手について分からないことやもっと知りたいことについて尋ねることができる。	友達の表情や様子から、友達の気持ちを理解することができる。また、相手の様子にあった思いやりのある言葉かけや接し方ができる。
友達を遊びに誘ったり、自分から「入れてよ」と言って、遊びのグループに入ったりすることができる。	新しい仲間を受け入れることができたり、仲良くなった人と、関係を維持したりすることができる。	クラスで何かに取り組む時に声をかけ合いながら取り組むことができる。また、友達が何かやり遂げたとき、一緒に喜ぶことができる。	クラスや学年で何かに取り組む時に声をかけ合いながら取り組むことができる。また、友達の悩みや頼みごとを親身になって考えることができる。
学校やクラスのルールを理解し守ろうとすることができるとともに、クラスの当番活動や係活動の役割を果たすことができる。	学校やクラスのルールを理解し守ろうとすることができるとともに、クラスの当番活動や係活動の役割を協力して果たすことができる。	学校やクラスをより良くしていくために、自分に何ができるかを考えて行動することができる。	学校生活をより良くしていくために、ルールを考えたり、作ったりすることができるとともに、自分の役割を最後までやり遂げることができる。
困った時に友達や先生に支援を求めることができる。	頼み事の理由を言うことができるとともに、相手にどうしてほしいかをはっきりさせて頼むことができる。	相手の都合を考えてから頼み事の理由と、相手にどうしてほしいかをはっきりさせて頼むことができる。	頼み事の理由と、相手にどうしてほしいかを述べ、聞き入れてもらった時の自分の気持ちを伝えることができる。
断る時には「ごめんね」等の謝る言葉を言ってから断ることができる。	断る時に「ごめんね」等の言葉を言って謝り、断る理由を述べることができる。	断る時に謝り、断る理由を述べ、断りを表明することができる。	断る時に謝り、断る理由を述べ、断りを表明することができるとともに、代わりの意見を言うことができる。
自分の気持ちを素直に表すことができる。	自分の考えや意見をはっきり伝えることができる。	相手の意見や気持ちを大事にしながら自分の考えや意見を伝えることができる。	相手の意見や気持ちも大事にしながら自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。
困っている友達を見ると、「どうしたの?」と声をかけることができる。	何に困っているかを尋ね、解決する方法を一緒に考えることができる。	何に困っているかを明確にし、解決する方法を一緒に考えることができる。	何に困っているかを明確にし、それぞれの立場を考えながら、解決する方法を一緒に考えることができる。

2 9年間を見通したピアサポート・プログラム

●児童生徒会活動・生活科・総合的な学習の時間



現在既に行っている児童生徒会活動の行事や生活科、総合的な学習の時間の中で取り組む「他者との交流活動」や「体験活動」をサポート活動にしたらどう？



●異校種・異学年交流

異校種・異学年交流が可能で、児童生徒が主体的に取り組めるものがあると思うんだけど。それに異校種・異学年での交流の方が、児童生徒が本来持っている援助的性向をより生かせるし、異校種・異学年の教師からの支援やアドバイスをすることで、より被援助者に応じた援助が期待できると思うんだ。

現在行っている活動を洗い出してみよう

●小学校では

小学校では、今までにも縦割りの班による異学年交流や1年生を迎える会など、児童会主催の様々な行事及び運動会などで、高学年が低・中学年の世話をする活動を取り入れていたよね。



●中学校では

中学校においても生徒会が中心となって実施している行事や職場体験、地域の方がボランティアとして入るゲストティーチャーとの交流活動をしていると思うの。そうした既存の活動を、サポート活動の場としながら進めていくとどうかしら。



みんなが自由に意見を交換できることが大切なんだよ。



●トレーニングは教科や学活で

サポート活動をする上で身に付けておいた方がよい能力を育てていく必要があるわね。「トレーニング」の時間がそれに当たる訳ですよ。トレーニングは各教科、学級活動などの時間の中でそれぞれのねらいに応じて実施すればいいので、特別な時間を作る必要はないんです。教育課程の枠組みの中で展開していけばいいんです。



●中学生が自信を持てる

部活動で取り組んでいることを、小学校の児童たちに伝えられないかなあ。自分の得意な分野なら、自信を持ってアドバイスできるしね。



児童に喜んでもらえたり頼りにされたりすることでよりいっそう自分に自信が持てると思うんだ。

●中学生の自己有用感が高まる

そうよね。このごろの子どもたちって、他者から自分がどのように見られているかで自己理解を深めていったりするから、プラスのフィードバックがあると、自分のしていることが誰かの役に立っていると感じられたり、自分は必要とされているって感じられるんじゃないかしら。そういう場を意図的にでも設定してあげたいわね。そのためにも、小学校の先生としっかり話し合う必要があると思うの。



連携のメリットについて話し合おう

●小学生の不安がなくなる

小学校の児童も、中学校への進学が近付くと、どんな先輩がいるのかな、先輩は優しいかなって不安になるものなんですよ。



小学校在学中に、中学の先輩と良い関係ができていると、中1ギャップの解消に、いくらか効果があるんじゃないかしら。

●あこがれの先輩のいる中学校へ

例えば秋の陸上練習に、陸上部の生徒がサポートに入ってくれたり、音楽会に向けての練習の時に、吹奏楽部の生徒がアドバイスをしてくれたりすることで、自分もあんなふうになりたいという、先輩へのあこがれを抱けるんじゃないかな。中学校に入学するのが楽しみになるといいですね。



●幼児も安心して小学校へ

幼児が小学校に入学する時も同じね。小学校に兄弟姉妹がいる子はまだいいんだけど、兄弟姉妹のいない幼児は小学校に入学することに不安を感じていると思うの。でも、小学校に行ったら知っているお兄ちゃんやお姉ちゃんがいるというのは、安心につながると思うのね。小学校に入学しても、なかなか学校になじめず学校不適應を呈する児童もいますものね。



このような話し合いの中から、9年間を見通したプログラムを作成した訳です。(p.20参照)これはあくまでもモデルなので、地域や各学校の実態に合わせてプログラムを組んでいくことが大切ではないでしょうか。



地域や各学校園の実態に合わせてプログラムを組むといいですね。

2 9年間を見通したピアサポート・プログラム

9年間を見通したピアサポート・プログラムモデル

学年	時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学年	サポート活動								◆あきとあそぼう				
	トレーニング								ア 自己紹介をしよう（聴く・話す力） イ 上手な聴き方（聴く・話す力） ウ 質問しよう（他者を理解する力） エ 仲間の誘い方（社会に適應する力）				
第2学年	サポート活動								◆2年生まつりをせいこうさせよう				
	トレーニング								ア 成長じゃんけん（自己を理解する力・他者を理解する力） イ 自分の考えを伝えよう（社会に適應する力） ウ 上手な聴き方（聴く・話す力） エ あたたかい言葉かけ（社会に適應する力）				
第3学年	サポート活動		◆ふれあいフェスティバルを成功させよう						◆力を合わせよう お年寄りとの交流				
	トレーニング		ア 上手な聴き方（聴く・話す力） イ 質問しよう（他者を理解する力） ウ 自分の考えを伝えよう（自己を理解する力・主張する力）						ア 自分の考えを伝えよう（自己を理解する力・主張する力） イ やさしい言葉かけ（社会に適應する力） ウ 話し合い名人（聴く・話す力） エ 友達のよいところを見つけよう（他者を理解する力）				
第4学年	サポート活動		◆住みよい町づくり&〇〇焼						◆協力してやりとげよう 学習発表会				
	トレーニング		ア 自己紹介（聴く・話す力） イ 上手な聴き方（聴く・話す力） ウ 質問しよう（他者を理解する力）						ア やさしい言葉かけ（社会に適應する力） イ 聴き方上手（聴く・話す力） ウ カードトーキング（自己を理解する力） エ 話し合い名人（聴く・話す力）				
第5学年	サポート活動		◆幼児と仲良くなろう①			◆幼児と仲良くなろう②			◆小学校のくらしを紹介しよう				
	トレーニング		ア 上手な話し方1（聴く・話す力） イ 上手な聴き方1（聴く・話す力） ウ 気持ちを分かって働きかける（社会に適應する力）			ア 上手な聴き方2（聴く・話す力） イ 上手な話し方2（聴く・話す力） ウ あたたかい言葉かけ（社会に適應する力）			ア 上手な聴き方3（聴く・話す力） イ 上手な話し方3（聴く・話す力） ウ トラブルの解決策を見つける（葛藤場面を解決する力）				
第6学年	サポート活動		◆協力して縦割り班活動を成功させよう										
	トレーニング		◆みんなに伝えよう 世界の中の〇〇っ子						◆感謝の気持ちを伝えよう				
児童会	サポート活動		◆虫歯菌をやっつけよう（保健委員会）			◆みんなで盛り上げよう運動会（代表委員会）			◆絵本大好き（図書委員会）			◆残さず食べよう（給食委員会）	
	トレーニング		ア 上手な話し方（聴く・話す力） イ 上手な聴き方（聴く・話す力） ウ あたたかい言葉かけ（社会に適應する力）										



は異校種でのサポート活動 は校内での異学年によるサポート活動

保幼小中の連携を作りだすために、年間指導計画を互いに交換し、どの活動を取り上げるか話し合ってみましょう。
何か特別なことをするというのではなく、今まで大事にしてきた活動を上手に生かしていけば無理がないですね。

学年	時期	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
中学校	第1学年	サポート活動	◆協力してやりとげよう 校外学習			◆協力してやりとげよう 体育祭・文化祭 (全校縦割)			◆協力してやりとげよう 総合的な学習(学年)					
		トレーニング												
	第2学年	サポート活動	◆協力してやりとげよう 職場体験				◆仲良し遠足			◆協力してやりとげよう 総合的な学習(学年)				
		トレーニング						ア 自己紹介をしよう(聴く・話す力) イ 上手な声のかけ方・聴き方(聴く・話す力)						
	第3学年	サポート活動	◆協力してやりとげよう 修学旅行							◆協力してやりとげよう 総合的な学習(学年)				
		トレーニング												
	生徒会	サポート活動	◆クリーン作戦		◆委員会の交流 ストップたばこ		◆出前授業 人権劇		◆紙上相談					
		トレーニング	ア 上手な声のかけ方 (聴く・話す力) イ 気持ちを分かって働きかける (社会に適應する力) ウ あたたかい言葉かけ (社会に適應する力)		ア 上手な話し方 (聴く・話す力) イ 気持ちを伝える話し方 ウ 気持ちを伝える話し方		ア 上手な話し方 (聴く・話す力) イ 上手な聞き方(聴く・話す力) ウ アドバイスをする ・不安や疑問に答える ・小学生に分かりやすく書く							
	部活動	サポート活動				◆陸上サポート				◆部活動紹介 学校紹介				
		トレーニング			ア 上手な質問の仕方(他者を理解する力) イ 上手な指示の仕方(聴く・話す力) ウ 上手なアドバイスの仕方(聴く・話す力)		ア 上手な話し方(聴く・話す力) イ 小学生の不安や疑問に親身に答える(社会に適應する力)							

岡山県総合教育センター研究紀要第1号「いじめや不登校を未然に防ぐためのピアサポートの導入」(岡山県総合教育センター, 2008) 改変

ピアサポート・プログラムの分類例

- 仲間づくり** — 誰もが学校や学級に居場所が保障されるような働きかけ
- お兄さん
お姉さん** — 新入生の学校案内や、異年齢交流など下級生のサポート
- グループ
リーダー** — 学校・学級・部活動などの仲間を大切にしたいグループの運営
- 指導・助言** — 学校生活・進路・禁煙・薬物乱用防止などのガイダンス
- 学習支援** — 仲間同士での教え合い、学び合い
- 相談活動** — スーパーバイザーのもと、問題を抱える仲間へのサポート

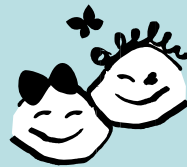
「すぐ始められるピアサポート・指導案&シート集(森川, 菱田, 2002) 改変

仲間づくり

【トレーニング風景】



「ふれあいフェスティバルを成功させよう」
(小学校第3学年)



「自分の気持ちを表現してみよう」
(小学校第4学年)

「友達にインタビューしてみよう」
(小学校第5学年)

お兄さん
お姉さん

【サポート活動風景】



「幼児と仲良くなろう」
(小学校第5学年)



「みんなで伝えよう世界の中の〇〇っ子」
(小学校第6学年)



「仲良しピクニック」
(小学校第5学年)



「一緒に水遊び」
(小学校第5学年)



「職場体験：保育園」
(中学校第2学年)



「スポーツ修行にチャレンジだ」
(小学校第5学年)

グループリーダー

【サポート活動風景】



「クリーン作戦」
(中学校生徒会)



「花植え集会」
(小学校第6学年)



「縦割りの班活動」
(小学校第6学年)



指導・助言

【サポート活動風景】



「学校紹介」
(中学校生徒会)



「読み聞かせ」
(小学校図書委員会)



「出前授業：人権劇」
(中学校人権委員会)

学習支援

【サポート活動風景】



「学習サポート」
(中学校第2学年)



「陸上サポート」
(中学校陸上部)



パート紹介に続いて
質問大会

「出前授業：合唱」
(中学校第3学年)



楽しい交流会も自分たちで企画

3 実践事例

I つながる 教職員の核づくり



中学校区で連携したいのですが、どうやってきっかけをつくったらいいのでしょうか。中学校区の教職員が会う様々な機会を活用して、まずは教職員同士が仲良くなる、子どもたちに身に付けさせたい力について話し合う、ピアサポートで活用できるワークを紹介するなど、連携の窓口となる教職員の核づくりに取り組んだ事例を紹介します。

●事例① 中学校区の研修会や各種部会の活用

中学校区単位で開催される、人権教育研修会、生徒指導担当者会、教育相談部会などで構成的グループ・エンカウンターを体験してもらいました。この手法は児童生徒の仲間づくりを促進したり、自己理解、他者理解を深めたりするだけではなく、教師同士の仲間づくりにも十分有効です。



●振り返りでは

自分のことに少し触れてみましょう。
自分のことを表現してみましょう。
他者からの表現を聴いて、仲間のことに少し触れてみましょう。
無理しなくていいですよ。



●体験する際に

この部屋の中で語られたことは、今日が終わって外では話さない、追及しないでください。できるだけ自分を開いてみましょう。「私は・・・と感じた」と今この場で感じていること、思っていることを話してみましょう。できるだけ他人の感じに触れてみましょう。うなずいたり、拍手したりしてもいい。最後まで口をはさまずしっかり受け止めてみましょう。話さない自由もあります。無理をし過ぎないでください。今私が言ったことは、学級で実施する時にも伝えてくださいね。

中学校区の養護部会で子どもたちに身に付けさせたい力について話し合う機会を提案してみました。それぞれの学校の実態について、共通のものさしで協議することができ、さっそく各学校に持ち帰り、校内でも話題にしてみようということになりました。
 (「ピアサポートで培いたい能力と発達段階に即した評価項目」を活用して)

培いたい能力		能力の具体化
1 個 人 的 能 力	① 自己認識	(ア) 自己を理解し、肯定的に受け止める力 ・自分を知ることができる ・他者とのかわりの中で、自分の良さに気付くことができる ・自分を肯定的に受け止めることができる
	② セルフ・コントロール	(イ) 感情を認知し表現する力 ・様々な感情があることに気付くことができる ・自分の感情を言葉等で表現することができる (ウ) 怒り等の感情をコントロールする力 ・自分が誰に(何に)対して、どのような感情(イライラ・腹が立つ)を持っていたかに気付くことができる ・本当は自分がどうしたかったのかに気付くことができる ・感情をコントロールする方法を知ることができる ・自分の感情をコントロールすることができる
	③ キャリア開発能力	(エ) 創造する力 ・将来の夢について話することができる ・自分の好きなことや得意なことを楽しむことができる ・家庭や社会に貢献することができる

●事例② 気軽に授業を参観し合う



中学校区の小学校と中学校は自由に授業参観ができるようになっていました。できるだけ時間を作って、お互いに出向いています。

小学校でうまくいっている手立てや、中学校で必要になる力など、授業を見せてもらうことで理解し合うことができ、小中連携もスムーズに出来るようになりました。

いろいろな場所で話題にしてもらうことで、次第に仲間が増えていきます。案外、それはいいねと興味を持ってもらえました。

●事例③ 校長会や教務主任の連絡会で話題に

小中連携も学校ぐるみだとスムーズです。校長会で話題にしてもらった、教務主任の連絡会で、小中で交流できる学校行事はないか検討してもらったりしました。





ピアサポートの考え方やトレーニングについては、事前に教師が研修をしておくといいですね。

★岡山県総合教育センターの『生徒指導・教育相談研修講座（発展コース）』『サポートキャラバン事業』など活用してみませんか。

* サポートキャラバン事業については
<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/kyaraban/index.htm>



H20年度の生徒指導・教育相談研修講座（発展コース）「ピアサポート」グループの研修内容です。受講者が学校で実践できるように自校に合った企画書を作成するところまでを目指しています。

第1回

- 1 自己紹介「私はだれでしょう」
- 2 ピアサポートとは（講義）
- 3 ピアサポートの取り組み（他校のビデオ視聴）
- 4 安心感のある場づくり（ピアグループの人間関係づくり）

第2回

- 1 **場面を設定して導入部分を体験してみよう**
- 2 トレーニングの実際
 - ・「今の自分の心を理解しよう」
 - ・「自分の感覚を磨こう」
 - ・「上手な聞き方」
- 3 プログラム導入のための企画書づくり
- 4 午後の振り返り

第3回

- 1 アイスブレイキングと2回目の振り返り
- 2 トレーニングの実際
 - ・「上手な誘い方」
 - ・「上手な話し方」
 - ・「気持ちと内容に傾聴するコミュニケーションの仕方」
 - ・「けんかの仲裁」
- 3 プログラム導入のための企画書づくり
- 4 午後の振り返り

第4回

- 1 アイスブレイキングと3回目の振り返り
- 2 トレーニングの実際
 - ・「ストレスとの上手な付き合い方」
- 3 プログラム導入のための企画書づくり
- 4 自分のプランを互いに紹介
- 5 4日間の振り返り



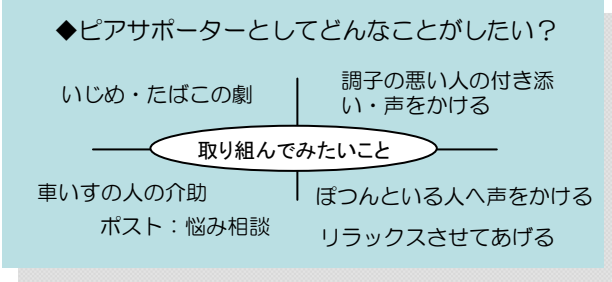
（場面設定）
 あなたは今年度、保健委員会の担当となり、今まで取り組んでみたかったピアサポートを導入しようと考えています。今日は保健委員会の初日です。さて、どんなふうに児童生徒にこのピアサポートの取り組みについて話をしますか？

◆ピアサポートってなんだろう

ピア: 仲間・友達	サポート: 支える・助ける
-----------	---------------

○自分たちは周りの人にサポートされて生きてきている。
 ○サポートというのは、特別なことではない。

保健委員会でピアサポートに取り組んで、この学校をもっともっと素敵な学校にしてみませんか？



- トレーニングの計画
- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| ①人間関係づくり（2日目） | ⑤気持ちと内容に傾聴するコミュニケーションの仕方（3日目） |
| ②聞き方（2日目） | ⑥けんかの仲裁（3日目） |
| ③上手な誘い方（3日目） | ⑦自分自身の心と体が健康であること（ストレスの解消の仕方）（4日目） |
| ④分かりやすい話し方（3日目） | |

Ⅱ

巻き込む

—幼小連携—

単元名「来年まってるからね」

【総合的な学習の時間の目標】

横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

【特別活動の目標】

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方について考えを深め、自己を生かす能力を養う。

学習目標

- おかれた状況や関係にふさわしく思慮・判断し、それに見合うように自分の感情や行動をコントロールしようとするができる。
- 幼児や友達の思いを感じながらかわりを持とうとすることができる。
- 人とかかわることの喜びを知り、積極的に人とかかわろうとすることができる。
- 自分たちの取り組みを振り返り課題を見付け、次の活動に生かすことができる。

実践の背景

新1年生が小学校生活になかなかなじめず不適応状態を起こしているという問題が生じてきている。そこで、来年入学して来る1年生が安心して小学校生活をスタートできるようにするために、次年度最高学年となる5年生を対象に、特別活動や総合的な学習の時間の中で幼児との交流体験を実施することにした。

授業のポイント

●動機付け

- ・来年入学して来る1年生が安心して過ごせるために、自分たちができることを発表し合うことで、来年最高学年としての自覚を促す。

●トレーニング

- ・ロールプレイングの手法を活用し、良いモデルとそうでないモデルを提示し、大切にしたいポイントを考える場面を設ける。
- ・授業の中で扱う具体的な場面は、幼児との交流で想定される場面をあらかじめ用意し、自分たちの活動と結び付けるように工夫する。

●個人プランニング

- ・ペアの幼児を思い浮かべながら、自分はどんなことを目指してサポート活動をしたいと思っているのかを明確にし、具体的な計画を立てる。

●サポート活動

- ・個人プランニングを念頭に入れながら、単なる活動だけに終わらないようにする。そのためにも、サポート活動後の振り返りと教師からの評価を大事にする。

本単元「来年まってるからね」 ピアサポート・プログラム

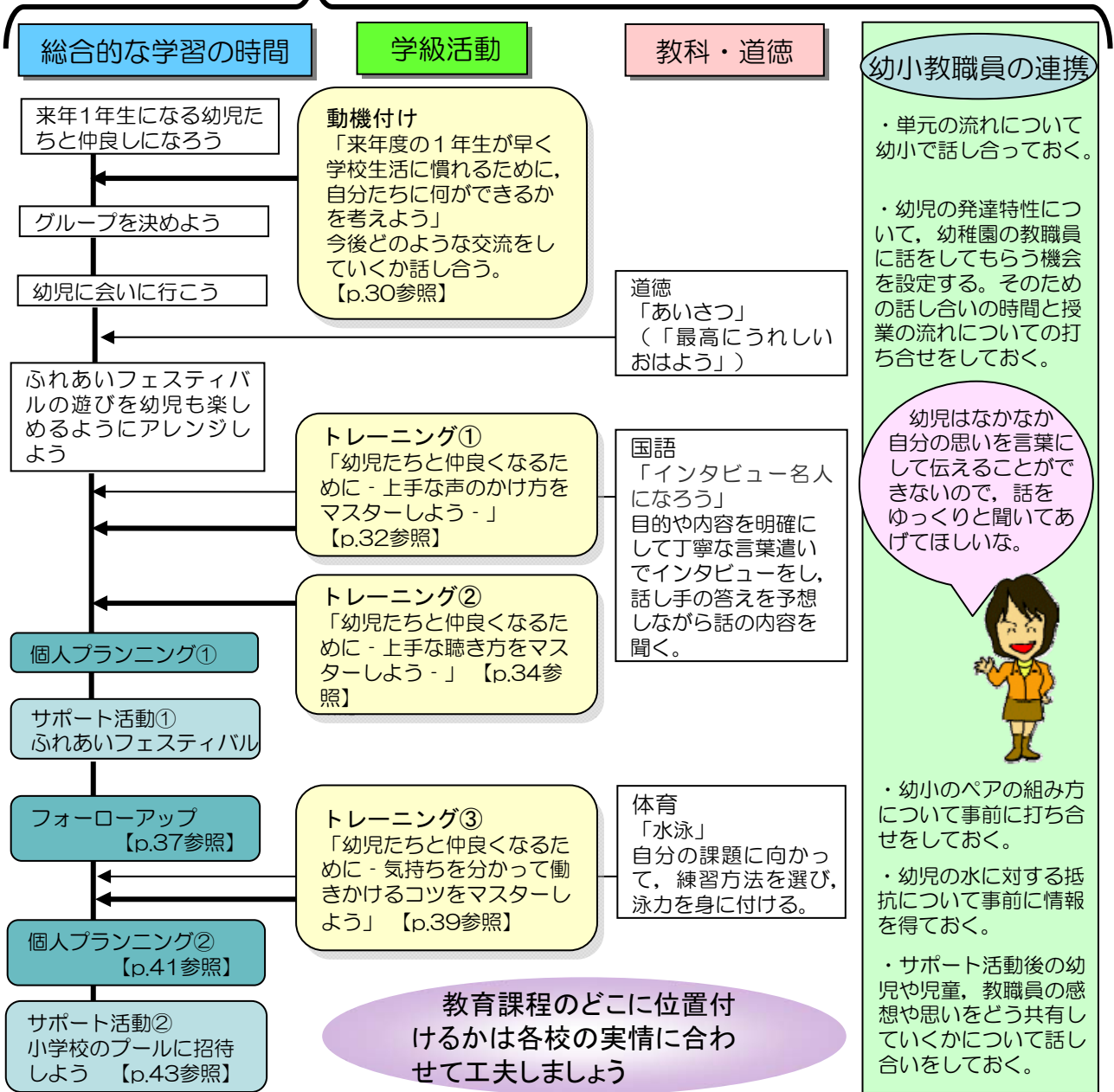
動機付け 来年入学して来る1年生が，早く学校生活に慣れるために，新6年生になるみんなができることはないだろうか。

	トレーニング (学級活動)	個人プランニング (総合的な学習の時間)	サポート活動 (総合的な学習の時間)
幼児と仲良くなろう①	①上手な声のかけ方	例：個人のめあて 「大きなプールに入るのは初めてだから，不安な気持ちや怖い気持ちを理解して声をかける」	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいフェスティバルに招待しよう ・小学校のプールに招待しよう 
	②上手な聴き方1		
	③気持ちを分かって働きかける		
幼児と仲良くなろう②	④上手な聴き方2	例：個人のめあて 「相手によく分かるように大きな声で，ゆっくり読む」	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに行こう ・手作りおもちゃで遊ぼう 
	⑤上手な話し方1		
	⑥あたたかい言葉かけ		
小学校のくらしを紹介しよう	⑦上手な聴き方3	例：個人のめあて 「幼児同士がけんかになった時には，それぞれの思いを聴き，一緒に解決策を考える」	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検をしよう 
	⑧上手な話し方2		
	⑨トラブルの解決策を見付ける		

単元構想表

「来年まってるからね」

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
流れ	幼児と仲良くなろう①				幼児と仲良くなろう②				小学校のくらしを紹介しよう			
	小学校のプールに招待しよう ふれあいフェスティバルに招待しよう スティールに 招待しよう 幼児に会いに行こう				絵本の読み聞かせに行こう 交流に行こう 手作りのおもちゃを持って 交流に行こう で紹介しよう 幼児との交流				幼児と学校探検をしよう			



「幼児と仲良くなろう①」


動機付け 【学級活動】

めあて

来年度の1年生が早く学校生活になれるために、自分たちに何ができるか考えよう

入学したばかりの1年生はどんな気持ちだろう

- ・勉強はむずかしいかな。
- ・お友達はできるかな。
- ・先生や他の学年のお兄さんお姉さんはやさしいかな。
- ・給食は全部食べられるかな。






5～6歳児の特徴

- ◆むずかしくても自分たちの満足のいくまでやろうとする。
- ◆自分でも大きな子のように振る舞おうと努力するようになる。
- ◆言葉が達者になり、口げんかが多くなる。

自分たちに何ができるだろう

- ・入学前に、少しずつ顔見知りになって、入学した時に幼児が安心できるようにする。
- ・この1年間で、幼児と仲良くなる。
- ・小学校の生活を知らせたり、一日体験を一緒にしたりして、学校生活への不安を少しでも減らす。



●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①本時のめあてを知る	<p>・入学したばかりの新1年生の気持ちに気付かせるために、自分たちが入学した当時の写真や映像を見る場を設定する。</p> <p>●入学したばかりのころはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>●今日のめあては「来年度の1年生が早く学校生活になれるために、自分たちに何ができるか」について考えていこうと思います。</p>	<p>・入学したばかりの新1年生の気持ちを考えることができているか〔2-④-(カ)〕</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>5～6歳のころはね</p> </div> 
展開	<p>②5～6歳児の特徴を知る</p> <p>③来年度の1年生が早く学校生活になれるために、自分たちに何ができるかを考える</p>	<p>・5～6歳児の特徴に気付かせるために、園の担任が幼児の発達の特徴を話すことで、5～6歳児の特徴に気付くことができるようにする。</p> <p>・何ができるかを具体的に考えることが難しい児童には、園の担任に質問をしたり助言を得たりすることもできることを知らせる。</p>	 <p>・分からないことやもっと知りたいことについて質問することができるか〔2-④-(カ)〕</p>

<p>展 開</p>	<p>④自分の考えをまとめ、グループで話し合ったことを発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にワークシートに自分の考えを整理する時間を設けることで、安心してグループで話し合うことができるようにする。 ・各グループでの発表の後、「幼児の立場に立った援助になっているか」という視点で、自分たちの考えを練り直すよう助言をする。また、その際、園の教職員から助言を受けても良いことを伝えておく。 ・援助の必要な人の心に寄り添い、その人が持っている問題解決能力を引き出すようにサポートしていくことを「ピアサポート」ということを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを大事にしながら自分の考えや意見を伝えることができるか〔2-⑤-(サ)〕 ・相手の立場に立って聞くことができるか〔2-④-(オ)〕
<p>ま と め</p>	<p>⑤本時のまとめをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「援助する」ということについて、教師の思いを語り、次時は、援助のためのトレーニングをすることを知らせる。 	

みんなはこれまでも友達を助けた経験がたくさんあると思います。助けた後の気持ちはどうでしたか。相手から感謝されると、とてもうれしい気持ちになりますが、いつもいつも感謝されるとは限りません。「余計なお世話」って感じに思われたことはありませんか。「助けてあげたのに」ってあなたが腹が立った経験はありませんか。また、「ありがとう」って感謝してくれるけど、その後もあなたに助けを求めてきて重荷に感じたことがあるかもしれませんね。

援助するってことは、その人の役に立つことで、役に立つというのは、その人が自分で問題を解決していく力を発揮しやすいようにすることです。あなたが解決してしまうと、幼児の役には立たないし、本当の意味での問題の解決にはならないということです。



今日は園の先生にお話ししていただいたので、幼児の立場に立った具体的なお話が聞けて良かったわ。

相手の立場に立っての支援になっているかということを常に振り返りながらサポート活動ができるようになるといいですね。

忙しいけれど、毎週金曜日の放課後に時間をつくって打ち合せしたか良かったですね。



授業のねらいや子どもたちの状態について、事前に細やかな情報交換をしたり、それぞれの専門的な立場を生かし、授業の中でもゲストティーチャーとして交流できたりするといいですね。

「幼児と仲良くなる①」

トレーニング① 上手な声のかけ方 【学級活動】

めあて

幼児と仲良くなるために - 上手な声のかけ方をマスターしよう -

こんな時どうする？

〔場面1〕ふれあいフェスティバルで、A子さん（幼児）がひとりぼっちで床に座り込んでいます。今にも泣きそうな表情です。さて、あなたならこんな時どんなふうに声をかけますか？

◆Aさんはどんな気持ちなのだろう



ポイント


- ①相手の様子をよく知る
- ②相手と視線の高さを合わせ、きちんと見る
- ③相手に聞こえる声で言う
- ④笑顔で言う

新しい場面で練習してみよう

〔場面2〕ふれあいフェスティバルで、時間がなくて、行きたかったパビリオンに行けなくて泣きベソをかいているC男君（幼児）がいます。さて、あなたならそんな時どんなふうに声をかけますか？



●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①本時のめあてを知る ・本時では幼児とふれあいフェスティバルで一緒に過ごす際の、上手な声のかけ方について学習することを知らせる。	
展 開	②提示された場面絵（写真）から、幼児がどのような気持ちなのかを考える ③二つの声のかけ方のモデルを見て上手な声のかけ方のポイントを考え、発表する ・幼児の表情や様子が伝わる具体的な場面や写真を提示することで、その時の気持ちを考えることができるようにする。 ●Aさんはどんな気持ちでしょう。どんな様子からそのような気持ちが伝わってきましたか。 ・具体的なポイントを見付けることができるようにするために、二つの声のかけ方のモデルを示し、比較する場を設ける。 ●まず、一つ目のやり方です。（A子役の児童が床に座り込みうつむくまねをする）（教師は立ったまま上から見下ろすような感じで「どうしたの？ こんなところで座ってちゃあだめだよ」と大きな声で言いながら立たせようとする。）	・幼児の表情や様子から幼児の気持ちを考えることができているか〔2・④・(カ)〕

展開		<p>●次に、二つ目のやり方です。（A子役の児童が床に座り込むまねをする。）（教師はA子役の児童のそばに近付き、腰を降ろして視線を合わせ、「どうしたのかな？大丈夫？」と背中にそっと手を当て、相手に届くようなやさしい声で声をかける。）</p> <p>●みんなは、二つのやり方を見てどんな感じがしましたか？</p> <p>●幼児に声をかける時には、どちらのやり方がいいですか？</p> <p>・ 幼児に声をかける時にどんなことに気を付けたらよいか、グループで話し合う場を設ける。</p> <p>●みんなの意見をまとめてみると、不安を感じているような小さな子に声をかける時には、次の四つの方が大切なんですね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①相手の様子をよく知る ②相手と視線の高さを合わせ、きちんと見る ③相手に聞こえる声で言う ④笑顔で言う</p> </div> <p>・ 場面2を用意し、繰り返し練習をする時間を設けることで、四つのポイントをより意識することができるようにする。</p>	<p>・ ポイントを見付け発表することができているか [2-⑤-(サ)]</p>															
	<p>④声のかけ方の練習をする</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>幼児</th> <th>第5学年</th> <th>観察者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>C</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>		幼児	第5学年	観察者	1回目	A	B	C	2回目	C	A	B	3回目	B	C	A	<p>●まず、3人グループを作ります（A：幼児役、B：児童役、C：観察役）。そして、グループの中で、役割を交代しながらやってみましょう。</p> <p>●次に言われた相手がどのような「感じ」を持ったか、グループ内で話し合みましょう。</p>
	幼児	第5学年	観察者															
1回目	A	B	C															
2回目	C	A	B															
3回目	B	C	A															
まとめ	<p>⑤本時の活動を振り返る</p>	<p>・ 上手な声のかけ方をすることで、幼児の不安を取り除いたり、あたたかい関係が促進できたりすることを伝える。</p>																

ソーシャルスキル教育の手法を、事前に研修しておくとう安心ですね。



ソーシャルスキル教育については、たくさん書籍も出てるけれど、あらかじめ幼小合同で研修していたので落ち着いて進めることができたわね。

予想される場面を実際にロールプレイングすることで、実感が湧き、相手の立場に立ったかわり方を考えることができたわね。


どういうことに気を付けたらよいか、ポイントをみんなで考えていくことが大切だね。



「幼児と仲良くなろう①」 トレーニング② 上手な聴き方 【学級活動】

めあて 幼児と仲良くなるために - 上手な聴き方をマスターしよう -

話をしっかり聞いてもらったときのことを思い出してみよう



・友だちとけんかして家に帰ってきた時に、お母さんが、うなずきながら最後まで話を聞いてくれたので、気持ちが楽になった。


こんな時どうする？

〔場面1〕ふれあいフェスティバルで、幼児を案内することになりました。しかしペアのB男君（幼児）が突然「家に帰りたい」と泣き出してしまいました。さてあなただったら、こんな時どんなふうに話を聴きますか？

ポイント

①体を向ける
②話す人を見る
③相づちを打つ
④最後まで話を聴く
⑤分からないことは質問する
⑥本人の気持ちを聴く



◆B男君はどんな気持ちなのだろう



・知らない人ばかりなので寂しいよ
・これからどんなことをするの？

●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①本時のめあてを知る	・前時を振り返り、本時では来年度、新1年生になる幼児と仲良くなるために、上手な聴き方のポイントを学習することを知らせる。	
展 開	②話をしっかり聞いてもらった時の気持ちを考える ③三つの聴き方のモデルを見て上手に聴くポイントを考え、発表する	<p>・自分の体験を振り返ることで、しっかり話を聞いてもらった時の気持ちを思い起こすことができるようにする。</p> <p>●人に話を聞いてもらった時、どんな気持ちになったかな。</p> <p>●相手が気持ちよく話せる上手な聴き方を考えてみましょう。</p> <p>・三つの聴き方のモデルを示し、比較することで、より具体的なポイントを見付けることができるようにする。</p> <p>●これから先生が三つの聴き方をやってみます。だれか先生にお話をしてくれる人はいませんか。</p> <p>●では、先生に、「昨日家に帰ってからのこと」を話してください。</p>	<p>・自分の感情に気付き簡単な言葉で表現することができるか 〔1-①-(イ)〕</p>

34

展 開		<p>●まず、一つ目のやり方です。（向き合って座る。視線を合わせたり、うなずいたりしない。時計を見たり、あくびをするなどの態度をとりできるだけ関心を向けず聞き方をする。）</p> <p>●次に、二つ目のやり方です。（教師は立ち、児童は椅子に座る。児童が話した内容を否定したり、相手の話をとってしまったり、言葉尻をとらえて説教調になってしまったりするなどの態度をとる。）</p> <p>●三つ目のやり方です。（教師と児童は90度～120度くらいの角度で座る。教師は視線を合わせ、うなずいたり、「うんうん、そう」などと関心を持って話を聴く。時には話題に沿った質問をしたりして熱心に相手の気持ちをくみながら聴く。）</p> <p>●みんなは、三つのやり方を見てどんな感じがしましたか？</p> <p>●幼児の話を聴く時には、どの聴き方がいいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことに気を付けたらよいか、グループで話し合う時間を設ける。 <p>●みんなの意見をまとめてみると、上手な聴き方をするには次の六つのことが大切なんですね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①体を向ける ②話す人を見る ③相づちを打つ ④最後まで話を聴く ⑤分からないことは質問する ⑥本人の気持ちを聴く</p> </div> <p>・ B男の表情や様子が伝わる場面1や、さし絵を提示することで、その時のB男の気持ちを考えることができるようにする。</p> <p>・ 繰り返し練習することで、六つのポイントをより意識することができるようにする。</p>	<p>・ ポイントを見付け発表することができているか 〔2-⑤-(サ)〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>36ページの「上手に聴くためのワンポイントアドバイス」も参考にし てね。</p> </div>  <p>・ さし絵の幼児の表情や様子から、幼児の気持ちを考えることができるか 〔2-④-(カ)〕</p> <p>・ 相手の立場に立って聴くことができているか 〔2-④-(オ)〕</p>															
	④上手な聴き方の練習をする	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>幼児</th> <th>第5学年</th> <th>観察者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>C</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>		幼児	第5学年	観察者	1回目	A	B	C	2回目	C	A	B	3回目	B	C	A
	幼児	第5学年	観察者															
1回目	A	B	C															
2回目	C	A	B															
3回目	B	C	A															
ま と め	⑤本時の活動を振り返る	<p>・ 上手な聴き方をするので、幼児の不安を取り除いたり、幼児が安心して話ができたりすることを押さえる。</p>																

ワンポイントアドバイス - 話を上手に聴くために -



「話を上手に聴くためのポイント」をお伝えしましょう



①「ながら」をしないで話を聴きます

勉強しながら聴いたり、作業をしながら聴いたりすると、話の内容を勘違いして受け取ったり、友達の気持ちが分かりにくくなったりします。また、友達も、本当に話を聴いてくれているのか不安になります。

②話を最後まで穏やかに聴くようにします

話している友達の話が一段落するまでは、うなずいたり、「へえ～」「それで？」などに関心を持って聴き、話が一段落するまでは、自分の感想や考え、意見などは言わないようにします。

③話の中ではっきりしないことは、質問して確認します

話の流れがはっきりしない時は、「もうちょっと詳しく話してくれる？」「それは誰が言ったの？」「誰がしたの？」「それはいつのこと？」などの質問をします。そうすることで、相手も、混乱していた事実関係や気持ちを整理することができるようになります。

④聴いた話の内容を、友達に返してみます

友達の話が一段落したら、「～だったんだね」と、その話の内容を簡単にまとめて、友達に伝え返してみます。そうすることで、友達の言っていることが自分に理解できたか確認できるし、友達もまた、話がきちんと伝わっているかを確認することができます。

⑤友達の気持ちを聴いてみます

友達の話の内容が分かったら、そのことで、どんな気持ちになっているかを聴いてみます。「それで、あなたはどんな気持ちなの？」

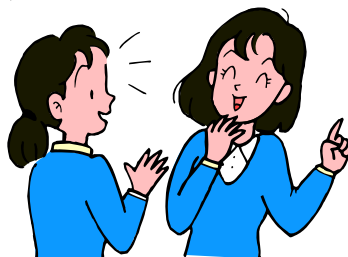
⑥「これから、どうしたいか」を聴いてみます

友達の気持ちが分かったら、次に、これからのことを聴きます。「それで、あなたはこれからどうしたいの？」「それで、あなたはどのように思っているの？」

⑦自分の意見や考えを言う時は、「私メッセージ」を使うようにします

「私（僕）としては～だといいなと思うんだけど」「私（僕）としては～した方がいいんじゃないかと思うんだけど」
※「私メッセージ」（私は～だと思う、感じる）という言い方をすると、表現が穏やかになり、また強制的、断定的なものではなく、相手が安心して聴けるようになります。

ピアサポート学会 ピアサポート研修講座資料
(森川,2007) 改変



「幼児と仲良くなる①」 フォローアップ 【総合的な学習の時間】

めあて ふれあいフェスティバルでの幼児へのかかわりを振り返ろう

がんばったことやうれしかったことを振り返ろう

グループで振り返り、課題点を見付けよう



〇がんばったこと

- ・ 分かりやすくアドバイスした。
- ・ 自分から話しかけることができた。
- ・ 詳しく教えることができた。
- ・ 準備をがんばった。

〇うれしかったこと

- ・ 楽しかったよと言われた。
- ・ 幼児が笑顔を返してくれた。
- ・ またやりたいと言われた。
- ・ けががなかった。

(振り返りの観点)





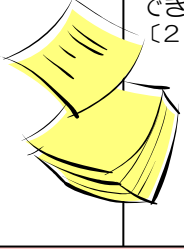
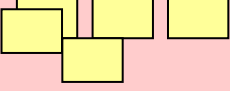
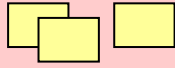
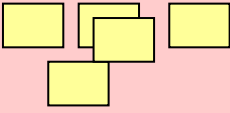
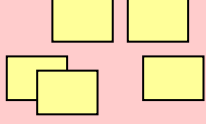
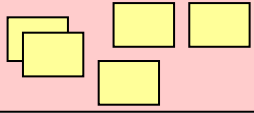
- ① 幼児の様子
- ② 指示・説明・役割分担
- ③ 遊び(活動内容)
- ④ 時間
- ⑤ 声かけ・接し方

解決策について話し合おう

- ・ 役割分担を明確にする。
- ・ 分かりやすい説明の仕方を心がける。
- ・ 幼児の様子から伝わってきた気持ちを言葉や態度で伝えてみる。

●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	<p>①本時のめあてを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時はふれあいフェスティバルでの幼児へのかかわりについて振り返ることを知らせる。 ・ 園の先生からの助言と幼児からのメッセージが録画されたビデオレターを見せることで前時の活動を振り返りやすくする。 	<p>お兄ちゃんがやさしく案内してくれてうれしかったです</p>
展開	<p>②「がんばったこと」や「うれしかったこと」を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りカードに書かせることで、自分の思いや気持ちを整理することができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で感想を順番に発表させることで、他者のいろいろな気持ちや思いに気付くことができるようにする。 ・ がんばったことや、うれしかったことを発表する時間を設けることで、活動に対する満足感や自己有用感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を振り返り、文章や言葉で自分自身と対話することができるか〔1-①-(ア)〕 ・ 友達の話を聴き終わった後に、自分が思ったことや感じたことをグループのメンバーに話すことができているか〔2-④-(オ)〕

3 実践事例ー 実践Ⅱ「来年まってるからね」:フォローアップ

展 開	<p>③振り返りの観点に沿って振り返り、課題を見付ける</p>    	<p>・振り返る観点を示し、考えや意見をカテゴリごとに分類させることで、自分たちの考えを整理することができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(振り返りの観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①幼児の様子 ②指示・説明・役割分担 ③遊び(活動内容) ④時間 ⑤声かけ・接し方 </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>①幼児の様子</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>④時間</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>②指示・説明・役割分担</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>⑤声かけ・接し方</p>  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>③遊び(活動内容)</p>  </div> <div style="margin-top: 10px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">グループの課題</th> <th style="width: 30%;">解決策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>→</td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	グループの課題	解決策	→	→	→	→	→	→	<p>・相手の気持ちを大事にしながら自分の考えや意見を伝えることができるか 〔2-⑤-(サ)〕</p>
	グループの課題	解決策									
→	→										
→	→										
→	→										
ま と め	<p>④課題と課題克服のための解決策について発表する</p>	<p>・グループごとに課題と課題克服のための解決策について発表させることで、次時のサポート活動へ生かすことができるようにする。</p>									
	<p>⑤本時の活動を振り返る</p>	<p>・本時の活動を振り返ることで、次時の活動に意欲を持って取り組むことができるようにする。</p>									



アドバイスを三つお伝えします。

・一つ目はポケットに手を入れながら幼児と話している人がいましたね。やはりポケットから手を出した方が感じがいいですね。

・二つ目は上から見下ろすようにして話をする、ちょっと圧迫感を感じている幼児もいたようです。少し背をかかめて視線を合わせて話してあげるといいですね。

・三つ目は「何をしてもいいよ」と言われると幼児は逆に戸惑ってしまいます。いくつか選択肢を出してあげて、その中から選ばせてあげるといいですよ。

「幼児と仲良くなろう①」 トレーニング③ 気持ちを分かって働きかける【学級活動】

めあて

幼児と仲良くなるために
- 気持ちを分かって働きかけるコツをマスターしよう -

気持ちを分かってどういうこと？

- ・友だちが泣いていたら自分もつらくなること。
- ・友だちが努力して成功した時、自分もすごくうれしい気持ちになること。

二つのモデルを比べ、気持ちを分かって働きかけるポイントを考えよう

ポイント

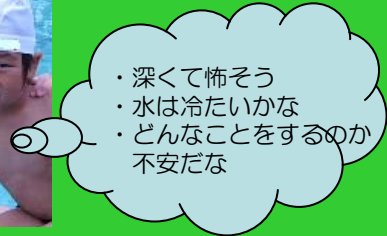
- ①相手の様子をよく知る
- ②「その人の様子」+「自分の気持ち」
- ③相手に体を向ける
- ④相手をきちんと見る
- ⑤聞こえる声で言う
- ⑥笑顔で言う



こんな時どうする？


〔場面〕プールサイドで、じっと固まって動こうとしないC男君（5歳）がいます。さてこんな時あなたならどうしますか？

◆C男君はどんな気持ちなのだろう



●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①本時のめあてを知る	・本時では幼児と水遊びをする際に、幼児の気持ちを理解し、その気持ちに寄り添ったかわりができるようにするためのポイントを学習することを知らせる。
展 開	②「気持ちを分かる」ということについて知る ③二つのモデルを見て、気持ちを分かって働きかけるポイントを考え、発表する	・自分の感情に気付き、表情や態度及び簡単な言葉で表現できているか 〔1 - ② - (イ)〕

3 実践事例－実践Ⅱ「来年まってるからね」:トレーニング③

展 開		<p>●先生の表情を見てください。どんな気持ちでいるか分かりますか？（うれしい、悲しい、驚いている、怒っている表情等）</p> <p>●では、目の大きさや口の形などがどうなっている時、どんな気持ちなのかを確かめてみましょう。まず、怒っている顔です。こんな顔です。みんなもそれぞれやってみましょう。</p> <p>●次に、共感していることを相手に伝えることが大切です。いくら共感してもそれを表さなければ相手には伝わりません。</p> <p>●では、先生が二つのやり方をやってみます。だれか手伝ってくれませんか？</p> <p>●Aさんは「うれしそうな」表情をしてみてください。</p> <p>●まず、一つ目です。 （「どうしたの？ ふうんそう」とあっさり伝える）</p> <p>●次に、二つ目です。 （うれしそうだね。何かあったの？ そうなんだ。私もうれしくなっちゃた。などと【私も+感情語】で伝える）</p> <p>●みんなは、二つのやり方を見てどんな感じがしましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを分かって働きかける時には、どんなことに気を付けたらよいか、グループで話し合う時間を設ける。 ●みんなの意見をまとめてみると、次の六つのことが大切なんですね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①相手の様子をよく知る ②「その人の様子」+「自分の気持ち」 ③相手に体を向ける ④相手をきちんと見る ⑤聞こえる声で言う ⑥笑顔で言う</p> </div> <p>④気持ちを分かって働きかける練習をする</p>	<p>・演じた教師の表情や様子から気持ちを考えることができるか 〔2・④・(カ)〕</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>眉毛や目がつりあがっています。口が横に広がっています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>何だかうれしそうね。私もうれしくなっちゃたよ。</p> </div> <p>・ポイントを見付け発表することができるか 〔2・⑤・(サ)〕</p>															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 15%;">幼児</th> <th style="width: 15%;">第5学年</th> <th style="width: 15%;">観察者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </tbody> </table>		幼児	第5学年	観察者	1回目	A	B	C	2回目	C	A	B	3回目	B	C	A	<p>・幼児の表情や様子が伝わる場面や写真を提示することで、その時の幼児の気持ちを考えることができるようにする。</p> <p>・繰り返し練習をすることで、六つのポイントをより意識することができるようにする。</p> <p>・すぐに練習にとりかかれるように、三人組（幼児役・児童役・観察者）でローテーションしながら練習する表をあらかじめ作成し提示する。</p>
	幼児	第5学年	観察者															
1回目	A	B	C															
2回目	C	A	B															
3回目	B	C	A															
ま と め	<p>⑤本時の活動を振り返る</p>	<p>・気持ちを分かって働きかけるためには、幼児の様子をしっかりと観察することや、その様子を見て自分がどう感じたかを伝えることが大切であるということを押さえる。</p>																

「幼児と仲良くなろう①」 個人プランニング② 【総合的な学習の時間】

めあて

私がやりたいサポート活動を考えよう

自分がやりたいサポート活動を具体的に考えよう

- ・不安に感じている幼児がいたら優しく声をかけたい。
- ・何か困っていることがあったらしっかり話を聴いて幼児が少しでも楽しめるようにしたい。

サポート活動の計画を立てよう

- いつ
- どこで
- どのように
- 活動の時心がけること


班で話し合ってみよう

【話し合いの視点】

- 自分がそのサポート活動をするのに困ることや心配なこと
- そうした課題を解決するにはどうしたらよいか

・プールサイドを走り回ったりプールに飛び込んだりしたらどうしたらいいだろう。

・水に入るのが恐くて泣き出したらどう声をかけたらいいだろう。



●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①本時のめあてを知る	・本時では、実際にサポート活動をする際の具体的な内容や計画を立てることを知らせる。	
展 開	②自分がやりたいサポート活動を具体的に考える ③サポート活動の計画を立てる ④サポート活動をする上で不安に感じていることや解決策について班で話し合う	・自分の考えを整理し明確にするために、個人プランニングシート（p.42参照）を用意し、自分がやりたいサポート活動を記入する時間を設ける。 ・自分がすべきことを、より明確にさせるために「いつ」「どこで」等、できるだけ具体的に考えるよう助言をする。 ・サポート活動をする上で不安に感じていることや解決策について班で話し合う場を設けることで、より良いサポート活動が実行できるようにする。	・相手の気持ちを大事にしながら自分の考えや意見を伝えることができているか 〔2-⑤-(サ)〕
ま と め	⑤本時の活動を振り返る	・本時の活動を振り返り、サポート活動への意欲を高める。	

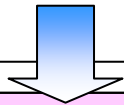
個人プランニングシート（例）

幼児と仲良くなろう ～小学校のプールに招待しよう～ 私がやりたいサポート活動

私は、幼児が少しでも安心してプールに入れるように、自分がまずプールに入り、幼児が水に慣れるまで抱っこおんぶをしてプールの中を歩こうと思っています。その時に少しでも幼児の不安を少なくするために「恐くない？」とか「おねえちゃんがそばにいるからね」と声をかけていきたいです。



課題	※そのサポート活動をするのに困ることや心配なこと（自分の性格も考えて） ・声をかけても、幼児がプールに入るのを恐がり、なかなかプールサイドから動こうとしなかったらどうしよう	サポート活動の計画
解決方法	※そうした課題を解決するにはどうしたらよいか（自分なりの考え） ・本人が入る気持ちになるまで、手をつないでそばにいる。無理やりプールに入るように促さない。	○日時 7月10日（木曜日）3校時 ○場所 小学校のプール ○活動の時心がけること ・幼児の表情や態度をよく見て、今どんな気持ちなのかを考えるようにする。 ・自分から笑顔で声をかけるようにする。 ・どんなことをして遊びたいのか幼児の気持ちを聞くようにする。



班の友達からのアドバイス	
A男	その幼児と仲良しの友達にちょっと声をかけてもらって、もし入れたら、慣れるまでペア同士で一緒に遊ぶのはどうだろう。
B子	無理やりプールに入れたら恐かった気持ちだけが残ると思うので、本人が入る気持ちになるまで待てばいいと思う。手をつないであげるのは、幼児が安心すると思うのでいいと思う。時間内にどうしても入れそうになかったら、自分だけで何とかしようとしなくて、先生に相談してみたらいいと思うよ。
C太	プールに入ることを目指すんじゃなくて、その幼児とまず仲良くなろうと思ったらどうかな。おしゃべりしてもいいし、ジャンケン遊びをしてもいいし、その子が少しでも安心して過ごせる方法を考えたらどうだろう。

プランニングシートに書くことで、自分の考えが明確になり、具体的なサポート活動をイメージしやすいわね。



ありがとう。みんなのアドバイスのおかげで、少し自信を持って取り組めそうよ。



アドバイスし合うことで、サポートする際の大事なポイントを再確認しているみたいね。

「幼児と仲良くなろう①」

サポート活動②：小学校のプールに招待しよう【総合的な学習の時間】

めあて 幼児たちが、安心して楽しんで過ごせるようなサポートをしよう

3時間目～4時間目までの流れ

(3時間目：総合)

- ・水着に着替え、プールの入り口で幼児を待つ
- ・全員で準備運動をする
- ・はじめのあいさつをする
- ・幼児と一緒にシャワーを浴びる
- ・ペアの幼児と小プールで水遊びをする

(20分遊んだら5分休憩)



- ・全員で整理運動をする
- ・終わりのあいさつをする

事前に個人プランニングと、ペアの幼児の名前を確認しておこう！

(4時間目：総合)

サポート活動についての振り返り



●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入 (5分)	①本時のめあてを知る	・本時では、個人プランニングに基づいて、実際にサポート活動することを知らせる。	
展 開 (40分)	②サポート活動をする 	・なかなか幼児に声がかけにくい児童には、その場に応じた適切ななかかわり方について個別にアドバイスをする。	・幼児の表情や様子から、幼児の気持ちを考えることができるか 〔2-④-(カ)〕 ・共感的な態度でかわることができるか 〔2-④-(キ)〕
振 返 り (45分)	③本時の活動を振り返る 	・サポート活動を実際に行ってみて、うまくいったことや課題点について班ごとに振り返る時間を設けることで、今後どのようななかかわり方をすればよいかについて意見を交換することができるようにする。 ・班で出てきた感想や意見を全体で共有し、次時への意欲を高める。	・相手の気持ちを大事にしながら自分の考えや意見を伝えることができるか 〔2-⑤-(サ)〕

Ⅲ あるものを生かす

－小中連携－ 「ようこそ後輩」



目 標

中学校の生徒が、小学校の児童とのかかわりの中で、人の役に立つことの喜びを知り、より積極的に支援しようとすることができる。

実践の背景

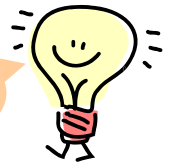
中学校では、いじめ・不登校等の生徒指導上の諸問題が見られ、自分に自信が持てず自分たちの学校に誇りを持たない生徒が多く見られる。また、新入生が、中学校になかなかなじめず不適応状態を起こすという問題も生じている。そこで、来年、新入生が安心して中学校生活をスタートできるようにするとともに、生徒が他者とのかかわりの中で自分が生かされることを感じとれるよう、生徒会活動や部活動の時間の中で小中の交流活動を実施することにした。

実践のポイント

● 動機付け

小学校第6学年の児童が、来年、安心して中学校に来られるよう、自分たちができることを発表し合うことで、中学校の先輩としての自覚を促す。

今ある教育活動にピアサポートの視点を取り入れてみよう。



● トレーニング

生徒会活動や放課後の時間を使って実施する。

* 学級活動の時間に、ソーシャルスキル教育などを実施している場合はこれを活用する。

● 個人プランニング

小学校第6学年の児童が、安心して中学校に来られるようにするため、自分が何を目標としてサポート活動をしたいと思っているかを明確にし、具体的な計画を立てる。

● サポート活動

小中連携のサポート活動には時間や距離の制約がある。

この課題を克服するため、現在実施している学校行事や活動を生かせないか考える。

① 陸上サポート

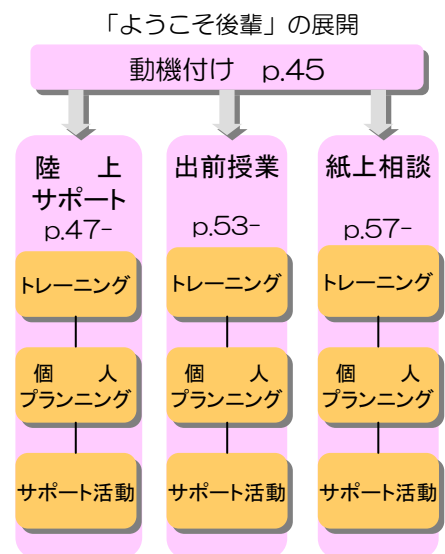
(小学校の陸上記録会に向けての練習を陸上部がサポートする)

② 出前授業

(小学校に人権劇の出前授業に行き、人権の大切さを訴える)

③ 紙上相談

(小学校第6学年の児童の、中学校生活についての不安や疑問に中学校の生徒が手紙で答える)



「ようこそ後輩」動機付け 【生徒会活動】

めあて

新入生が安心して中学校生活を送るために、
自分たちに何ができるか考えよう



ピアサポートって
なあに

「先輩のみなさんへ。中学校で頑張っている様子を聞いて喜んで
います。もうすぐ6年生が、後輩として中学校に入学します。とても楽
しみにしている反面、中学校はどんなところだろうとドキドキしていま
す。先輩であるみなさんに力になってもらえるとうれしいです。
(小学校の先生からビデオレターや手紙で)

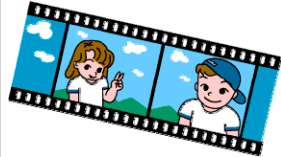
援助の必要な人の心に寄り添い、その人が持っている
問題解決能力を引き出すようにサポートしていくこと

入学したてのころ
どんなことが不安でしたか？
どんな先輩にいて欲しかったですか？

- ・勉強についていけるかな？
- ・他の小学校から来る人と仲良くなれるかな？
- ・部の先輩は優しいかな？
- ・宿題はたくさんあるかな？

自分たちにどんなことができるだろう？

- ★部活動を紹介しよう ➡ 各部に呼びかけてみよう
- ★小学生の心配や疑問に答えてみよう ➡ 生徒会役員を中心にやってみる？
- ★中学校の自慢の活動を紹介しよう ➡ 人権委員会の取り組みを紹介してはどうか？

●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①この時間のめあてを知る	・小学生をサポートしたいという気持ちが高まるように小学校の先生からの手紙を読む。	
展開	②「ピアサポート」について知る	・イメージがつかめるようにプリントを用意する。(資料1 p.46参照)	 <p>・自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができているか 〔2-④-(オ)〕</p>
	③来年度の1年生が早く学校生活になれるために、自分たちに何ができるかを考える	<p>・入学したてのころの気持ちを思い起こさせることで、自分たちが具体的に何ができるかを考えることができるようにする。</p> <p>●入学したてのころ、どんなことが不安だったでしょう。どんな先輩にいて欲しかったですか？</p>	
	④グループで考えを出し合い協議する	・各委員会ごとに考えを出し合い、全体で分担を決めさせることで、自分たちが何をすることを明確にすることができるようにする。	
まとめ	⑤今後の予定を確認する	・各委員会ごとに今後の予定を発表させることで、サポート活動への意欲を高める。	

資料 1

今回は、来年の新入生のために、先輩として手助けをするための活動に参加を希望してくれてありがとう。

ピアサポートの
ピアとは「仲間」 サポートとは「支える」という意味です。

仲間を支えるためには、まず、自分や他の人の悩みや問題が分かることとその手助けの仕方が分かることが大切です。

そのためには、次のようなことを身に付けていきたいと思います。

- 話の聴き方
- 質問の仕方
- 話をする時の姿勢や態度，距離
- 課題解決の方法
- 感情への対処の仕方
- 自分を守ってサポートすること，サポートの限界

小学生が入学を楽しみにしてくれるような中学校にしていきたいと思います。

生徒会長



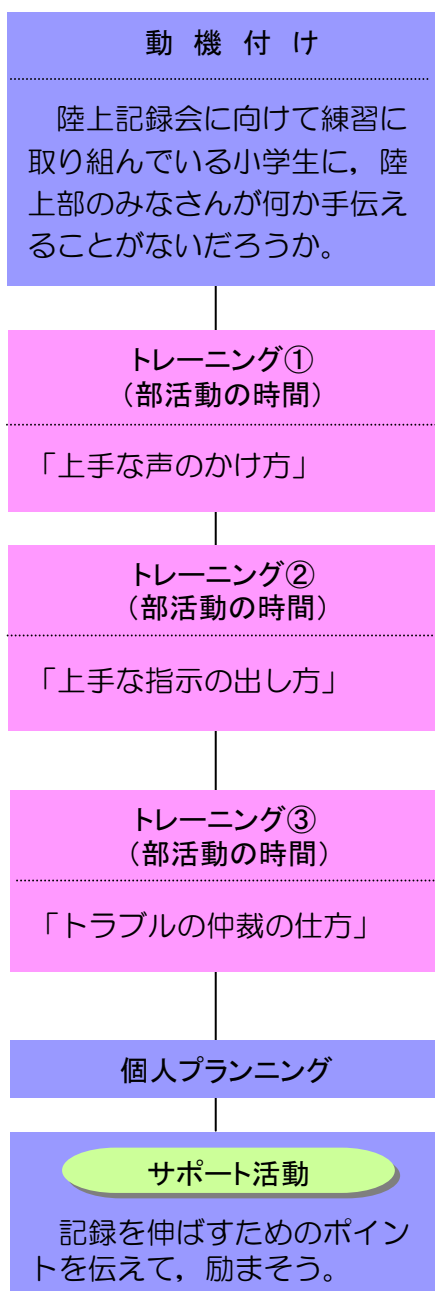
(生徒会役員の写真)

指導の流れ ①陸上サポート

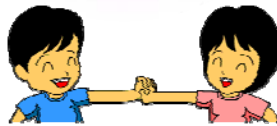
【部活動についての配慮事項】

生徒の自主的、自発的な参加により行われ、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意する。

- 枠組み : 課外活動（部活動） 陸上部員によるサポート活動
- サポート活動分類 : 指導・助言
- 必要なトレーニング : 上手な声のかけ方, 上手な指示の出し方, トラブルの仲裁の仕方
- ねらい : 学童陸上記録会に向けて練習に取り組んでいる小学校の児童のサポートを通して、自己有用感を高める。



この時
小学校では



練習する中で困っていること、聞いてみたいことはどんなことですか。



各自で聞いてみたいことをカードに書いてみよう。

この時
中学校では

いろいろな場面を想定して、その場面での対処方法を考える。

小中教職員の連携

- ・ 陸上サポートの流れについて、小学校担当者と中学校陸上部顧問で話し合いをしておく。
- ・ 出場する児童数や種目、スケジュールを調整する。
- ・ 当日までの準備について連携できる点を検討する。



事前に小学校の児童が質問したいことをまとめて送りますか？



それはありがたいですね。中学校の生徒も準備がしやすくなります。それからトレーニングの段階で、小学校の児童の特徴などを先生に助言してもらえると助かります。

活動後に互いに感想を交換すれば、更に自己有用感が高まると思います。



「陸上サポート」 トレーニング① 上手な声のかけ方【課外活動】



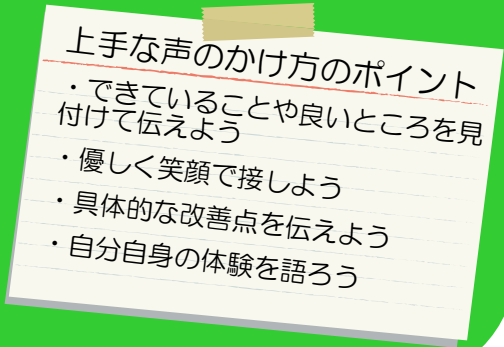
めあて 記録が伸び悩んでいる時の上手な声のかけ方を知ろう

どんな声のかけ方がよいかを考えよう

- ・大丈夫
- ・スランプは誰にでもある
- ・ピンチはチャンス

自分自身が悩んだ時のことを思い出してみよう

- ・自分ではがんばっているつもりでも記録が伸びなくてつらかった。
- ・気持ちばかりあせってしまってイライラしていた。
- ・投げやりな気持ちになった時もある。



●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①この時間のめあてを知る	●小学校の児童の気持ちを理解し、その気持ちに寄り添った声のかけ方について考えていこう。	
展開	②自分自身の記録が伸びずに悩んだ時のことを考える ③どのような言葉をかけたらいいか考える	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が記録が伸びずに悩んだ時に、どのような気持ちになったかを考え、発表させることで、小学校の児童の気持ちを想像することができるようにする。 ●その時、嬉しかったり勇気付けられたりした言葉かけは、どんなものでしたか？ ●これまで考えたことを参考にして、小学校の児童にどのような声かけをしたらいいと思いますか？ ・意見交換をすることで、様々な声のかけ方があることに気付くことができるようにする。 	<p>良いところをしっかりと見付けることが大切だね。</p> <p>・相手の意見や気持ちも大事にしながら自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるか</p> <p>〔2-⑤ - (サ)〕</p>
まとめ	④この時間の活動を振り返る	・この時間を振り返ることでサポート活動への意欲を高める。	

「陸上サポート」 トレーニング② 上手な指示の出し方【課外活動】



めあて 小学生に分かりやすい指示の出し方を考えよう

場面1 今日の練習予定を伝える場面

場面2 途中で児童を集めて指示を出す場面


先生の二つのモデルを見て気付いたこと

A：何を言っているのか聞き取れない。
説明が長すぎて分かりにくい。

B：ゆったりした感じで聞きやすかった。
声もはっきりしていて分かりやすかった。

上手な指示の出し方のポイント

- ・顔をしっかり見よう
- ・相手のペースに合わせよう
- ・分かりやすく短い言葉で指示しよう
- ・指示を出す時の合図を決めておこう

●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①この時間のめあてを知る	●小学生に分かりやすい指示の出し方を考えよう。	
展 開	②二つの指示の出し方のモデルを見て上手な指示の出し方のポイントを考え、発表する ③上手な指示の出し方を練習する	<ul style="list-style-type: none"> ・より分かりやすい指示の出し方のポイントに気付くことができるように、二つのモデルを示す。 ・個人で考えた意見をグループで出し合うことで、様々な指示の出し方があることに気付くことができるようにする。 ・上手な指示の出し方のポイントを意識しながら練習をさせることで、安心してサポート活動に臨むことができるようにする。 ・練習の中で、小学校の先生から直接助言を受けることで小学校の児童の発達段階に合った分かりやすい指示ができるようにする。 	<p>専門用語はできるだけ使わないようにしましょうね。</p>  <p>・声をかけ合いながら取り組むことができているか 〔2-④-(キ)〕</p>
ま と め	④この時間の活動を振り返る	・小学校の先生の助言を聞くことでサポート活動への意欲を高める。	

「陸上サポート」

トレーニング③ トラブルの仲裁の仕方 【課外活動】




めあて トラブルが起こった時の仲裁の仕方を学ぼう

こんな時どうする？

場面X：100メートル走の練習をしています。記録係Aと走ったBが、言い合いになっています。二人の様子から何かトラブルが起きたようです。



仲裁の仕方のポイントは？
 【三つの約束を当事者に伝える】
 ①正直に気持ちを話すこと
 ②しっかりと相手の話を聞くこと
 ③相手が話している時は、決して遮らないこと
 ・双方の食い違いをはっきりさせて、解決のためにどうしたいのかを双方から聞く

●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①この時間のめあてを知る ・トラブルが起こった時にどう対処するのか、具体的に仲裁の仕方を学ぶことを知る。	
展 開	②場面Xについてどう対応するか考える ●この場面でみんなだったらどうしますか？ ・その場でどのように仲裁するかを考え、発表させることで、様々な仲裁の仕方があることに気付くことができるようにする。 ・出てきた意見を順序立てて板書し、仲裁の仕方のポイントをまとめる。 ③場面Xで仲裁の練習をする ・トラブルを起こすA役とB役と仲裁役の分担を決め、練習させることで、ポイントをより意識することができるようにする。 ・それぞれの役を演じた感想を述べ合うことで、より良い仲裁の仕方について考えを深めることができるようにする。	話し合うための三つの約束を伝えることが大事だね。  ・それぞれの立場を考えながら、解決する方法を一緒に考えることができるか 〔2 - ⑤ - (シ)〕
ま と め	④この時間の活動を振り返る ・この時間を振り返ることでサポート活動への意欲を高める。	

「陸上サポート」 個人プランニング 【課外活動】

めあて 担当する種目についてサポート活動を考えよう

小学生から届いた質問カードの例を参考にサポート活動の内容を考えよう


サポート活動の計画を立てよう

質問：ソフトボールを遠くに投げるにはどうしたらいいですか？

サポート活動をするのに困ることや心配なことを話し合おう

- ・ボールを投げる理想的な角度を教える。
- ・実際にやってみせるのもよい。
- ・ひじが下がらないようにすることを教える。

- ・小学生が楽しいと思ってくれるかな？
- ・素直に聞いてくれるかな？

●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①この時間のめあてを知る	・小学校の児童の質問カードを基に実際にサポート活動をする際の具体的な内容や計画を立てることを知らせる。	
展開	②小学校の児童がまとめた質問カードの内容を確認しサポート活動を具体的に考える ③サポート活動をする上で不安に感じる事など、課題解決について話し合う	・小学校の児童の質問カードを参考にして各自で個人プランニングシート（p.52参照）を記入させることで、より相手意識に立ったサポート活動を考えることができるようにする。 ・担当種目について練習計画を立て、教えるポイントをまとめることで、自分がすべきことをより明確にすることができるようにする。 ・サポート活動をする上で不安に感じていることを話し合わせることにより、より良いサポート活動を実行できるようにする。	<p>準備は大丈夫かな？</p>  <p>・相手の意見や気持も大事にしながら自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができているか〔2・⑤・(サ)〕</p>
まとめ	④この時間の活動を振り返る	・この時間を振り返ることでサポート活動への意欲を高める。	

「陸上サポート」サポート活動のようす

緊張するなあ...



こんなふうにやってみて～



陸上サポート個人プランニングシート

年 組 氏名

いよいよ小学生たちに陸上競技の実技サポートを行います。陸上サポートが上手くできるように1～4についてまとめ、準備をしっかりとしましょう。

- 1 あなたが小学生に教える種目は？
- 2 その種目の基本や、記録を伸ばすためのポイントは？
- 3 おそらく緊張している小学生に対して、分かりやすく説明するためには、どんなことに注意して話したらいいだろう？
- 4 あなたは今回、どのような気持ちで小学生に接しようと思いますか？

私の言うことをちゃんと聞いてくれるかなあ...



自分がやるより、教える方がずっと難しいよね。



小学生に分かりやすい内容と言葉で



陸上サポート振り返り用紙

年 組 氏名

次の質問に当てはまると思う番号に○を付けてください。

5 とても思う 4 思う 3 どちらとも言えない 2 あまり思わない
1 思わない

- 小学生に優しくていねいに教えることができた。 5 4 3 2 1
- 小学生に分かるように話すことができた。 5 4 3 2 1
- 小学生の言うことをよく聴くことができた。 5 4 3 2 1
- 小学生に教えるのは楽しかった。 5 4 3 2 1
- 小学生に喜んでもらえてよい気持ちになった。 5 4 3 2 1
- 次の機会があればまた参加したい。 5 4 3 2 1

今回の活動を終えて、思ったこと、感じたこと、考えたこと、気付いたことなど何でもよいので書いてみましょう。

指導の流れ ②出前授業

- 枠組み : 特別活動（生徒会活動） 人権委員によるサポート活動
- サポート活動分類 : 指導・助言
- 必要なトレーニング: 上手な話し方
- ねらい: 小学校に人権劇の出前授業に行き、人権の大切さを訴えることを通して自尊感情や自己有用感を高める。

動機付け

小学第6学年の人たちが、来年、安心して中学校に来られるよう、先輩としてできることはないだろうか。

トレーニング (生徒会活動の時間)

「上手な話し方」

- ・ 気持ちを伝える話し方



この時
小学校では

中学校の先輩が
みなさんに伝えたい
ことがあるそうです。



どんなふうに迎
えたらいい
でしょう。

劇を見る時はど
んな態度がいいで
すか。



劇を見た感想を
書きましょう。

いじめについて
考えましょう。



個人プランニング

サポート活動

小学校に行き、人権学習で
取り組んだ劇を見せ、人権の
大切さを伝えよう。

小中教職員の連携

- ・ 小学校の人権の取り組みと連携できるようにスケジュール調整をする。
- ・ 小中のねらい（お互いのメリット）を話し合う。

小学校の児童は先輩から、呼びかけられることで、「一人一人を大切にしよう」という気持ちが高まるね。又、中学校入学後は、自分たちも大切にされるという安心感を持てるしね。



中学校の生徒は、小学校の児童に呼びかけることで人権意識が高まると思うよ。また、先輩としての自覚も高まるといいね。




- ・ サポート活動「出前劇」の流れについて、小中の教職員で話し合う。
- ・ 小・中学校の保護者にも知らせる。

- ・ 個人プランニングの内容やサポート活動については、事前に知らせる。
- ・ 小学校の児童や先生からのフィードバックを得ることで中学生が自己有用感を感じられるようしかけをする。
(劇を見たあとの児童の表情や様子などを知らせてもらう)

- ・ 実施したサポート活動の様子は、小中両校で紹介する。

「出前授業」トレーニング 上手な話し方 【生徒会活動】



めあて

気持ちや願いの伝わる話し方をマスターしよう

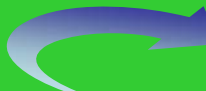
自分の気持ちを伝えるにはどんな話し方をしたらいいだろう

「桃太郎」のお話をいろいろな読み方で読んでみよう

- ・大きな声で言ってもらえると分かりやすい。
- ・小学生にはゆっくり言った方がいいね。
- ・内容にあった感情を込めるといいね。


せりふカードを使って二通りの話し方で伝えてみよう

いいなと思ったことをまとめると...



★話し方のポイント


- 伝えたい気持ちに合わせて
- ・声の大きさ
- ・話すスピード
- ・表情、態度
- ・間の取り方を考えよう
- 私メッセージで話そう



楽しい

なんかいやだ

わくわく

●主な発問			
	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導 入	①この時間のめあてを知る	●人権劇の出前授業を通して先輩からのメッセージを届けたいね。自分の気持ちや願いを伝える話し方をマスターしよう。	
展 開	②気持ちを伝える話し方について考える ・「桃太郎」の話を読んだいろいろな読み方で読む ・せりふカードを使って二通りの話し方で伝えてみる ③ポイントを押さえた話し方を練習する	・気持ちや感情は、言葉だけでなく、声の調子や顔の表情、身振りなどでも表せることに気付くことができるよう、同じ文章をいろいろな読み方で読んでみる。 ●どんな気持ちが伝わってきましたか。グループで感想を話し合おう。 ・相手が受け入れやすい、意見や考えの伝え方を知るために、せりふカードを使って二通りの話し方をしてみる。 ●二通りの話し方を聴いてどんな気持ちがしましたか。 ・ポイントをまとめたカードなどを使ってポイントを押さえて練習できるようにする。	・自分の考えや気持ちを率直に話すことができるか〔2-④-(オ)〕 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 小学校の児童役になって聞いてみてね。 </div>  ・相手の気持ちも大事にしながらか自分の考えや意見をはっきり伝えることができるか〔1-⑤-(サ)〕
ま と め	④この時間の活動を振り返る	・サポート活動の意欲が高まるようこの時間の活動を振り返る。	

お話カード

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。
 おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へ洗濯に行きました。
 ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、ドンブラコ、ドンブラコと、大きな桃が流れてきました。「おや、これは良いおみやげになるわ」おばあさんは大きな桃をひろいあげて、家に持ち帰りました。そして、おじいさんとおばあさんが桃を食べようと桃を切ってみると、なんと、中から元気の良い男の赤ちゃんが飛び出てきました。

「桃太郎」のお話をいろいろな読み方で読んでみよう

声の大きさ	大きな声	小さな声	
読む速さ	早口	ゆっくり	
気持ち	楽しそうに	悲しそうに	怒ったように



いろいろな読み方を聞いてどんな感じがしましたか。



同じ内容を二通りの話し方で伝えてみよう

せりふカード

小学生のみなさんそうじはまじめにしましょう。中学校に来て、環境美化に努めてください。



私たちはそうじに力を入れて取り組んでいます。みなさんも中学校に来たら、同じ気持ちになってくれるとうれしいです。



えっ、ちょっとこわいかも



先輩はやってるんですか



先輩たちがんばってるんだ私もやってみたい



気持ちを伝える話し方のポイントをまとめましょう。

・あなたが～で始まるのではなく、私メッセージで話すことがポイントだよ。(p.36参照)

・自分たちがどんな気持ちで取り組んでいるか相手がしてくれた時どんな気持ちになるか伝えられるといいね。



小学校の先生からのアドバイス

・小学校の児童に劇などを見てもらう時には登場人物を動物にするなど優しい感じにした方がいいんだよ。

・動物もキツネやオオカミがいつでもいじめっ子というイメージを持たせないように工夫してね。



気の弱いライオン

いじわるウサギ

見て見ぬふりのシカ

「出前授業」個人プランニング 【生徒会活動】

めあて 私がやりたいサポート活動を考えよう

自分のやりたいサポート活動を具体的に考えよう

あいさつの中で、私たちの思いを伝えたいね。

登場人物は動物とかにしようか。

内容も小学生向けに書き換えよう。



サポート活動をする上での不安や心配なことについて話し合おう

- ・小学生向けの内容といってもどんなのがいいかな。
→小学校の先生にアドバイスをもらったらどうだろう。
- ・小学生の前でやるのは緊張するな
→小学校に行く前に先生方に見てもらおうか。



●主な発問

	学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①この時間のめあてを知る	・サポート活動をする際の具体的な内容や計画を立てることを知らせる。	
展開	②自分のやりたいサポート活動を具体的に考える ③サポート活動の計画を立てる ④サポート活動をする上で不安に感じていることや課題解決について話し合う	・出前授業でどんな役割があるか話し合わせることで、自分たちにどんなことができるか考えることができるようにする。 ・個人プランニングシート（p.42参照）に記入させることで、自分が担当する役割を選び、担当として小学生向けにどんな配慮が必要かを明確にすることができるようにする。 ・自分の役割を遂行する上で不安に感じていることを話し合うことにより、より良いサポート活動が実行できるようにする。	・相手の意見や気持ちも大事にしながら自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるか 〔2-⑤-(サ)〕 小学生にはどんなふうに聞こえるかしら
まとめ	⑤この時間の活動を振り返る	・この時間の活動を振り返ることで、サポート活動への意欲を高める。	

「出前授業」サポート活動のようす

中学校では、「一人一人を大切に」を合い言葉にしています。



中学校の生徒の感想
みんなですごく話し合って準備しました。その中で改めていじめについて考えました。

中学校の生徒の感想
ちょっと緊張したけど、小学生が一生懸命見てくれてうれしかったです。



小学校の児童の感想
中学生の劇はとても良かったです。あの劇のようなことが起こらないよう人のことを考えられるようになりたいです。

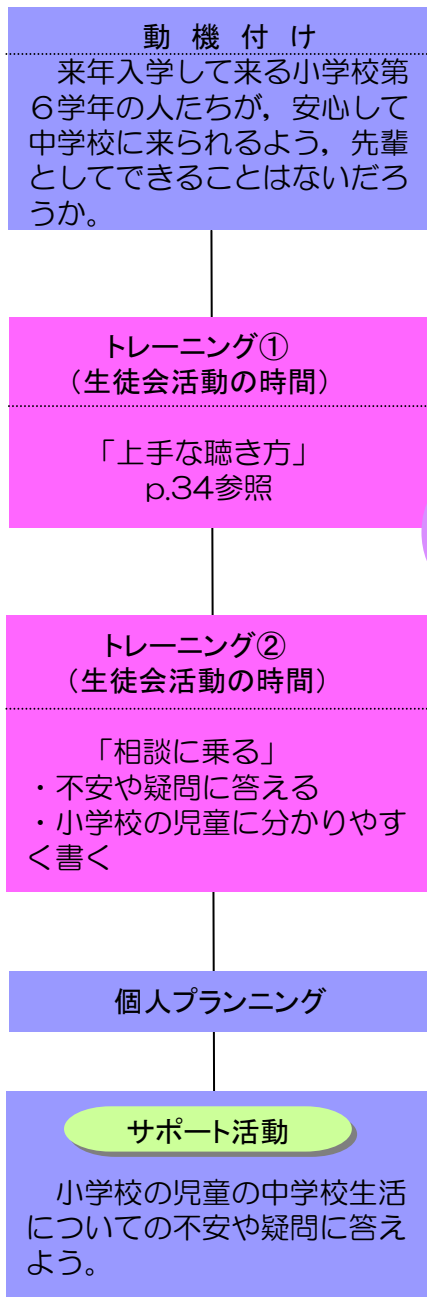


指導の流れ ③紙上相談

【生徒会活動の目標】

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

- 枠組み : 特別活動（生徒会活動） 生徒会役員によるサポート活動
- サポート活動分類 : 相談活動
- 必要なトレーニング : ①上手な聴き方 ②問題解決の仕方（相談に乗る）
- ねらい : 中学校生活に対する小学校第6学年の児童の不安や疑問に答える紙上相談を通して、自己有用感を高める。



この時
小学校では



中学校の先輩に聞きたいことはないですか。
↓
聞いてみたいことをカードに書いてみよう。

↓
手紙を書いてみよう。



先輩からの手紙を読もう。
↓
お礼の手紙を書こう。

小中教職員の連携

・サポート活動「紙上相談」の流れについて、小中の教職員で話し合っておく。

中学校の生徒からは、手紙かビデオレターで小学生に呼びかけてもらえるといいな。



中学校の生徒がやる気になるよう、小学校の先生から中学校の生徒に手紙を書いてもらえないかな。



・小中の保護者にもお知らせする。

中学校に行く準備として、小学校の児童にも中学校の生活について、考えさせる良い機会になりますね。


小学校の児童に分かりやすい手紙の書き方について小学校の先生から教えてもらえますか。

小学校の児童には、自分の気持ちを文章でうまく書けない子もいるので、気持ちをうまくみ取ってあげてほしいな。

・個人プランニングの内容やサポート活動については、事前に小学校に知らせておく。

・実施したサポート活動の様子は、小中両校で紹介しよう。

「紙上相談」トレーニング② 相談に乗る 【生徒会活動】



めあて
返事が書けたら先生に見せてくださいね。

小学生からの相談に返事を書く時のポイントをマスターしよう


小学校6年生のころ どんな気持ちだったかな

- ・ちょっと不安 ・心配 ・どんなことがあるか楽しみ
- ・中学校に行ったら頑張るぞ

相談に返事を書いてみよう

いいなと思ったことをカードにまとめよう


こんなふうに言ってもらえると嬉しいな。



なるほど、同じ相談にもいろいろな答え方があるんだね。

★返事を書くときのポイント

- ・安心できるように返事を書こう
- ・中学校でできることを紹介しよう
- ・質問にはていねいに答えよう
- ・自分の体験を書いてみよう
- ・分かりやすい言葉で書こう

●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入 ①この時間のめあてを知る	●相談したり、相談に乗ったりする体験をして、小学校の児童からの相談に返事を書く時のポイントをマスターしよう。	
展開 ②自分が小学校6年生のころの気持ちを思い出す ③相談に乗ってもらった体験をする ④相手の身になって返事を書く時のポイントをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・シート1 (p.59参照) に記入することで、小学校第6学年のころの気持ちを整理しながら思い出すことができるようにする。 ・相談に乗ってもらった心地良さを体験できるように、シート2 (p.59参照) を使って返事を書き合う場を設定する。 ・どんな返事がうれしかったかをまとめさせることで、相手の身になって返事を書く時のポイントを明確にすることができるようにする。 ●どんな返事がうれしかったですか。 ・返事を書く時のポイントをカードにまとめることで、サポート活動の時に活用できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 小学校の児童の知っている言葉や漢字を使ってね。 </div>  <p>・友達の不安や疑問を親身になって考えることができているか 〔2・④・(キ)〕</p>
まとめ ⑤この時間の活動を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいに振り返り活動を行うことで、「紙上相談」に向けて自信や意欲を持って臨むことができるようにする。 ●相談に乗ってもらったり、相談に乗ったりする体験をしてどんなことを感じましたか。	

シート1

不安や疑問リストシート

あなたが小学校6年生のころの気持ちを思い出してみよう

不安や疑問だったこと	ドキドキ度	相談したいこと

- ・ドキドキ度は100点満点として、どれくらい不安だったかを10点きざみで付けてください。
- ・一番相談に乗ってもらいたい項目に○を付けましょう。

・自分が不安だったことを書くのに抵抗のある生徒には、無理をしなくていいよと声かけをします。
 ・相談に乗ってもらう体験を通して相談の大切さや心地良さを感じ取らせてたいですね。
 ・自分がうれしかった返事から、小学生に返事を書く時のポイントを考えさせましょう。



どんな返事がもらえるかドキドキしたけど、みんな親身に答えてくれてうれしかったね。

相談に乗ったり、相談に乗ってもらったりするってなんかいい感じ。小学生からの手紙が楽しみだね。



相手の気持ちに合わせて、返事を書いてみましょう。



シート2

年 組 なまえ _____

相談シート



あなたの相談したいこと

1. (_____ より) あなたの気持ちは

2. (_____ より) あなたの気持ちは

3. (_____ より) あなたの気持ちは

4. (_____ より) あなたの気持ちは

返事もらってうれしかったのはこんなところです。



相談に乗ってもらったり相談に乗ったりしてみても気付いたことを書きましょう。



「紙上相談」個人プランニング 【生徒会活動】

めあて 私がやりたいサポート活動を考えよう

小学生からの相談を読んでどんな不安や疑問があるかまとめよう

★勉強のこと
英語は難しいかな？

★部活のこと
どんな部活があるの？

★学校生活のこと
学校行事 時間割 先生
先輩や友達

同じような内容でまとめるとこんなふうになったわ

ぼくはこの相談に答えられそうだよ。

サポート活動の計画を立てよう

ぼくはこの相談に乗りたいけれど、自分の考えだけでは不安だな。

サポート活動をするのに困ることや心配なことを話し合おう

どんな漢字を使えばいいかしら。小学校の先生に聞いてみたいわ。



●主な発問		
学習活動	教師の支援と留意点	評価の観点
導入	①この時間のめあてを知る	・サポート活動をする際の具体的な内容や計画を立てることを知らせる。
展開	②小学校の児童の不安や疑問について知る	・小学校の児童からの手紙を読み、同じような内容で整理をさせることで、小学校の児童の不安や疑問に気付くことができるようにする。
	③サポート活動の計画を立てる	・個人プランニングシート (p.42参照) を活用することで、自分のやりたいサポート活動について考えたり、整理したりすることができるようにする。
まとめ	④サポート活動をする上で不安に感じていることや課題解決について話し合う	・サポート活動をする上で不安に感じていることを話し合うことにより、より良いサポート活動が実行できるようにする。
	⑤この時間の活動を振り返る	・この時間の活動を振り返ることで、サポート活動への意欲を高める。

・相手の意見や気持ちも大事にしながら自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができるか [2-⑤-(サ)]

「紙上相談」サポート活動のようす



中学生のみなさんへ
...三つ目は友達です。中学校に入学して仲の良い友達と離れて、一人になるんじゃないかと不安です。友達はできるのでしょうか...。

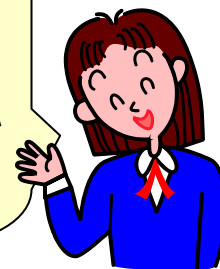
〇〇より

〇〇さんへ

やっぱり入学する時は不安でいっぱいですね。私もはじめは不安でいっぱいでした。様々な小学校から集まってくるので、人数は多くなりますが、気の合う友達がきっとたくさんできると思いますよ。昨年から人権委員会もできたので、はじめはほとんどありません。初めは不安だと思うけど、何かあったら相談してください。入学待ってます。

〇〇より

そんなことあったな



4 実態把握のためのアンケート

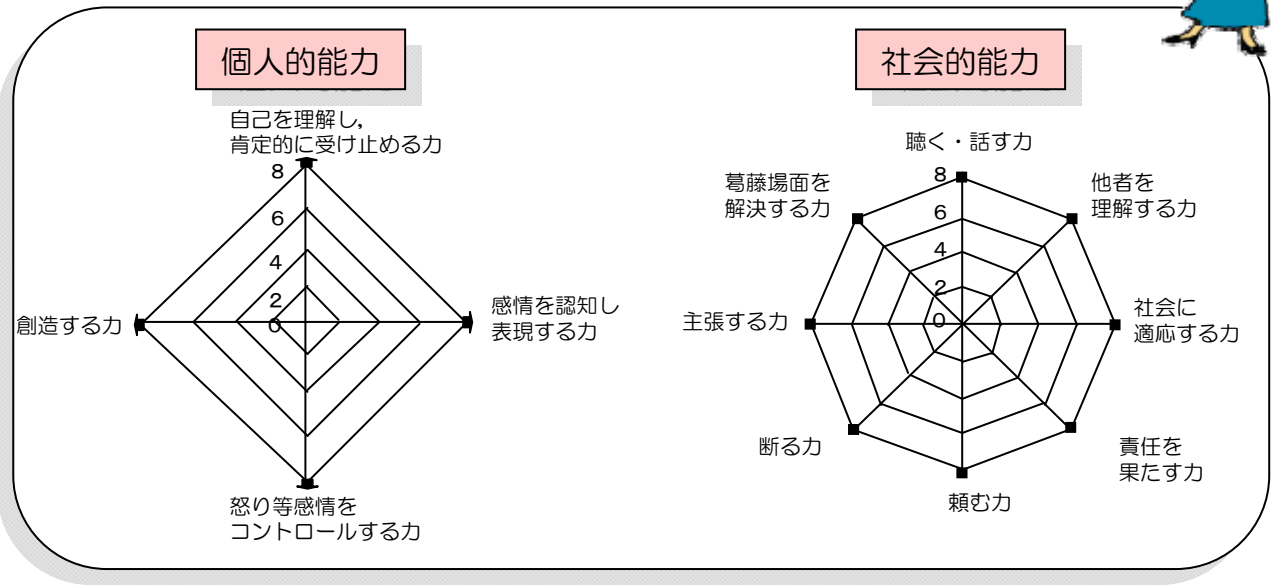


ピアサポートを進めていくために、子どもたちがどんな力を身に付けたらよいか実態を把握する必要がありますよね。日頃の教師の観察も大切ですが、アンケート等を活用して客観的に見ていくことも大事にしたいですね。

アンケートは小学校低学年用、中学年用、高学年用、中学校用があります。全部で24の質問項目で構成されており、それぞれについて「できない」(1点)、「あまりできない」(2点)、「だいたいできる」(3点)、「できる」(4点)の4件法で答えます。そして以下に示す表に沿って、培いたい能力ごとに点数化できるようになっています。それを個人的能力と社会的能力ごとにグラフに示していくことで、子どもたちの力のバランスを把握することができます。

培いたい能力		アンケート項目	
個人的能力	①自己認識	(ア)自己を理解し、肯定的に受け止める力	1, 2
	②セルフ・コントロール	(イ)感情を認知し表現する力	3, 4
		(ウ)怒り等の感情をコントロールする力	5, 6
	③キャリア開発能力	(エ)創造する力	7, 8
社会的能力	④対人関係形成能力	(オ)聴く・話す力	9, 10
		(カ)他者を理解する力	11, 12
		(キ)社会に適応する力	13, 14
		(ク)責任を果たす力	15, 16
	⑤問題解決能力	(ケ)頼む力	17, 18
		(コ)断る力	19, 20
		(サ)主張する力	21, 22
		(シ)葛藤場面を解決する力	23, 24

レーダーチャートにしてみると、子どもたちの力のバランスが一目で分かるわね！



実態把握アンケート集計フォームの活用方

手 順

①岡山県総合教育センターのWebページより、集計システムをダウンロードすると、集計フォームが出てきます。

②氏名欄に学級児童生徒の氏名と1～24の回答（1～4の数字）を入力します。

③集計フォームに入力すると集計シート「個人的能力」「社会的能力」に自動的に計算されたデータが入力されます。

④個人のデータを見る場合は集計シートの下段（右図）の表示したいデータ番号に該当児童生徒の番号を入力すると自動的にそのデータが表示され、さらに下段に学級の平均値と個人のデータが比較できるレーダーチャートが表示されます。

⑤個人のデータを印刷したい場合は印刷したいデータ番号を入力し、印刷開始ボタンをクリックすれば印刷できるようになっています。

ピアサポート実態把握のためのアンケート集計フォーム

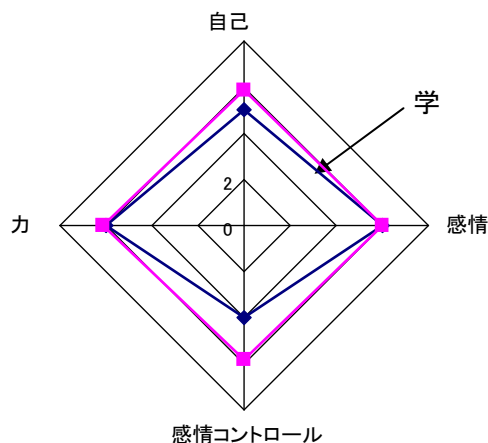
		1	2	3	4	6		
1	岡山	2	3	3	3	2	2	4
2								
3								
4								

ピアサポート実態把握のためのアンケート集計フォーム

個人的能力					
		自己	感情	感情 コントロール	カ
1	岡山		6	4	6
2					
3					
4					

示したいデータ

個人的能力					
		自己	感情	感情 コントロール	カ
1	岡山	6	6	4	6
	クラス	5.00	6.00	4.00	6.00



示したいデータ

~

— では、個人的能力のみを示していますが、実際は 会的能力も 記されています。

アンケート(低学年用)



あなたはふだん、がっこうでどのようにすごしていますか。

それぞれのしつもんについて「できない」なら1に、「あまりできない」なら2に、「だいたいできる」なら3に、「できる」なら4に○をつけてください。ともだちとそうだんしたり、まねをしたりしないであなたのかんがえてこたえてください。

	しつもん	できない	あまりできない	だいたいできる	できる
	ねん くみ なまえ ()				
1	じぶんの すきなもの(すきなこと)を いうことができる	1	2	3	4
2	じぶんの よいところを いうことができる	1	2	3	4
3	「きょうのきぶんは？」ときかれたときに じぶんのきもちを こたえることができる	1	2	3	4
4	いろいろなきもちを いうことができる	1	2	3	4
	いやなことでも がまんして とりくむことができる	1	2	3	4
6	だれかが ぶつかってきたとき おこらずに ゆるすことができる	1	2	3	4
	ーねんご じぶんはどんなことができるようになっていくか そうぞうすることができる	1	2	3	4
	おおきくなったら どんなしごとをしたいか(どんなひとに なりたいか) いうことができる	1	2	3	4
9	あさ ともだちやせんせいに あったら 「おはよう」のあいさつができる	1	2	3	4
10	ともだちやせんせいの かおをみながら はなしをすることができる	1	2	3	4
11	しつもんなどして ともだちのすきなあそびや すきなたべものなどについて しろことができる	1	2	3	4
12	ともだちのようすをみて ともだちのきもちに きづくことができる	1	2	3	4
13	ともだちを あそびに さそうことができる	1	2	3	4
14	じぶんから 「いれて」といって あそびのグループに はいることができる	1	2	3	4
15	「ろうかは しずかに あるく」など がっこうやクラスのやくそくを まもることができる	1	2	3	4
16	とうぱんや かけのしごとを きちんとさいごまで やりとげることができる	1	2	3	4
17	こまったときに せんせいやともだちに たすけをもとめることができる	1	2	3	4
18	ペンきょうがわからないとき せんせいやともだちに しつもんすることができる	1	2	3	4
19	やくそく(あそびのやくそくなど)を ことわるときは りゆうをいって ことわることができる	1	2	3	4
20	いやなさい(きけんなあそびのさいなど)は はっきりことわることができる	1	2	3	4
21	いやなことを いわれたときに(されたときに) 「いわないで」(「しないで」)ということができる	1	2	3	4
22	だれかが ともだちを からかっているとき やめるようにいうことができる	1	2	3	4
23	ともだちが こまっているときに 「どうしたの?」(「だいじょうぶ?」)と こえをかけることができる	1	2	3	4
24	ともだちが こまっているときに かいけつするほうほうを いっしょにかんがえることができる	1	2	3	4

4 実態把握のためのアンケート

アンケート(中学年用)



あなたはふだん、学校でどのように過ごしていますか。
 それぞれの質問について「できない」なら1に、「あまりできない」なら2に、「だいたいできる」なら3に、「できる」なら4に○をつけてください。
 友達と相談したり、まねをしたりしないであなたの考えで答えてください。

	質 問	できな い	あ ま り で き な い	だ い た い で き る	で き る
	年 組 名前 ()				
1	自分の好きなもの(好きなこと)を言うことができる	1	2	3	4
2	自分のよいところを言うことができる	1	2	3	4
3	「今日の気分は？」と聞かれたときに自分の気持ちを答えることができる	1	2	3	4
4	いろいろな気持ちをいうことができる	1	2	3	4
	いやなことでもがまんして取り組むことができる	1	2	3	4
6	だれかがぶつかってきた時自分の気持ちに気づくことができる	1	2	3	4
	一年後自分はどんなことができるようになっていくかそうぞうすることができる	1	2	3	4
	大きくなったらどんな仕事をしたいか(どんな人になりたいか)言うことができる	1	2	3	4
9	友達や先生の前で自分のことをしょうかいすることができる	1	2	3	4
10	友達の話を相づち(「うん、うん」「ふーん」など)を打ちながら聞くことができる	1	2	3	4
11	質問などして友達の好きな遊びや好きな食べ物などについて知ることができる	1	2	3	4
12	友達の様子を見て友達の気持ちに気づくことができる	1	2	3	4
13	友達を遊びにさそふことができる	1	2	3	4
14	自分から「入れて」といって遊びのグループに入る事ができる	1	2	3	4
15	「ろう下は静かに歩く」など学校やクラスの約束を守る事ができる	1	2	3	4
16	当番や係の仕事をきちんと最後までやりとげることができる	1	2	3	4
17	困った時に先生や友達にどうしてほしいかを伝えて助けを求めることができる	1	2	3	4
18	勉強がわからない時先生や友達に質問することができる	1	2	3	4
19	約束(遊びの約束など)をことわる時は理由を言ってことわることができる	1	2	3	4
20	いやなさそい(危険な遊びのさそいなど)ははっきりことわることができる	1	2	3	4
21	いやなことを言われた時に(されたときに)「いわないで」「しないで」と言うことができる	1	2	3	4
22	だれかが友達をからかっている時やめるようにいうことができる	1	2	3	4
23	友達が困っている時に「どうしたの?」「だいじょうぶ?」と声をかけることができる	1	2	3	4
24	友達が困っている時に解決する方法を一緒に考えることができる	1	2	3	4

アンケート(高学年用)



あなたはふだん、学校でどのように過ごしていますか。
 それぞれの質問について「できない」なら1に、「あまりできない」なら2に、「だいたいできる」なら3に、「できる」なら4に○をつけてください。
 友達と相談したり、まねをしたりしないであなたの考えで教えてください。

	質 問	1 できない	2 あまりできない	3 だいたいできる	4 できる
	(年 組 名前)				
1	自分の よいところを 言うことができる	1	2	3	4
2	今の自分を 振り返ることができる	1	2	3	4
3	「今日の気分は？」と聞かれたときに 自分の気持ちを答えることができる	1	2	3	4
4	自分の気持ちを 表情や態度で表現することができる	1	2	3	4
	いやなことでも がまんして 取り組むことができる	1	2	3	4
6	自分の気持ちを コントロールすることができる	1	2	3	4
	一年後 自分はどんなことができるようになっていくか そうぞうすることができる	1	2	3	4
	将来の夢に向けて 具体的に今どんなことをがんばればよいか 考えることができる	1	2	3	4
9	相手の立場に立って 話を聞くことができる	1	2	3	4
10	友達の話を聞き終わった後に 自分が思ったことや感じたことを 相手に話すことができる	1	2	3	4
11	質問などして 友達の興味のあることや 趣味などについて知ることができる	1	2	3	4
12	友達の表情や様子を見て 友達の気持ちを 考えることができる	1	2	3	4
13	クラスで何かに取り組む時に 声をかけ合いながら 取り組むことができる	1	2	3	4
14	自分から 「一緒にやろう」といって 他のグループに 声をかけることができる	1	2	3	4
15	「ろう下は静かに歩く」など 学校やクラスの約束を 守ることができる	1	2	3	4
16	高学年として 委員会や当番活動など 自分の役割を理解し 責任を持ってやりとげることができる	1	2	3	4
17	困った時に 先生や友達に どうしてほしいかを伝えて 助けを求められることができる	1	2	3	4
18	勉強がわからない時 先生や友達に 質問することができる	1	2	3	4
19	約束(遊びの約束など)を ことわる時は 理由を言って ことわるることができる	1	2	3	4
20	いやなさそい(危険な遊びのさそいなど)は はっきりことわるることができる	1	2	3	4
21	いやなことを 言われた時に(された時に) 「いわないで」「しないで」と言うことができる	1	2	3	4
22	だれかが 友達を からかっている時 やめるようにいうことができる	1	2	3	4
23	友達が 困っている時に 「どうしたの?」「だいじょうぶ?」と 声をかけることができる	1	2	3	4
24	友達が 困っている時に 解決する方法を 一緒に考えることができる	1	2	3	4

4 実態把握のためのアンケート

アンケート(中学校用)



あなたはふだん、学校でどのように過ごしていますか。
 それぞれの質問について「できない」なら1に、「あまりできない」なら2に、「だいたいできる」なら3に、「できる」なら4に○をつけてください。
 友達と相談したり、まねをしったりしないであなたの考えで答えてください。

	質 問	できない	あまりできない	だいたいできる	できる
	年 組 名前 ()				
1	自分の よいところを 言うことができる	1	2	3	4
2	今の自分を 振り返ることができる	1	2	3	4
3	「今日の気分は？」と聞かれたときに 自分の気持ちを答えることができる	1	2	3	4
4	自分の気持ちを 表情や態度で表現することができる	1	2	3	4
	嫌なことでも がまんして 取り組むことができる	1	2	3	4
6	自分の気持ちを コントロールすることができる	1	2	3	4
	一年後 自分はどんなことができるようになっていくか 想像することができる	1	2	3	4
	将来の夢に向けて 具体的に今どんなことを頑張ればよいか 考えることができる	1	2	3	4
9	相手が一番言いたいことは何なのかを考えながら 話を聞くことができる	1	2	3	4
10	友達の話を聞き終わった後に 自分が思ったことや感じたことを 相手に話すことができる	1	2	3	4
11	質問などして 友達の興味のあることや 趣味などについて知ることができる	1	2	3	4
12	友達の表情や様子を見て 友達の気持ちを 理解することができる	1	2	3	4
13	クラスで何かに取り組む時に 声をかけ合いながら 取り組むことができる	1	2	3	4
14	自分から 「一緒にやろう」といって 他のグループに 声をかけることができる	1	2	3	4
15	「ろう下は静かに歩く」など 学校やクラスの約束を 守ることができる	1	2	3	4
16	委員会や当番活動など 自分の役割を理解し 責任を持ってやりとげることができる	1	2	3	4
17	困った時に 先生や友達に どうしてほしいかを伝えて 助けを求めることができる	1	2	3	4
18	勉強が分からない時 先生や友達に 質問することができる	1	2	3	4
19	約束(遊びの約束など)を ことわる時は 理由を言って 断ることができる	1	2	3	4
20	嫌な誘い(危険な遊びの誘いなど)は はっきり断ることができる	1	2	3	4
21	いやなことを 言われた時に(された時に) 「言わないで」「しないで」と言うことができる	1	2	3	4
22	だれかが 友達を からかっている時 やめるようにいうことができる	1	2	3	4
23	友達が 困っている時に 「どうしたの?」「大丈夫?」と 声をかけることができる	1	2	3	4
24	友達が 困っている時に 解決する方法を 一緒に考えることができる	1	2	3	4

5 ピアサポート実践資料

- A小学校における幼小連携の実践
 - No. 1 サポート活動企画書
 - No. 2 単元構想表「幼稚園の友達と交流しよう」その1
 - No. 3 動機付け「自分たちに何ができるか考えよう」：ワークシート
 - No. 4 トレーニングチェックシート
 - No. 5 トレーニング1「上手な声のかけ方をマスターしよう」：ワークシート
 - No. 6 トレーニング2-①「上手な聴き方をマスターしよう」：ワークシート
 - No. 7 トレーニング2-②「聴き方」：話題カード
 - No. 8 トレーニング3-①「気持ちをわかって働きかけるコツをマスターしよう」：ワークシート
 - No. 9 トレーニング3-②「あたたかい言葉がけのコツをマスターしよう」：ワークシート
 - No.10 サポート活動「水遊び」：個人プランニングシート
 - No.11 サポート活動「水遊び」：振り返りシート
 - No.12 単元構想表「幼稚園の友達と交流しよう」その2
 - No.13 トレーニング4「自分の気持ちの伝え方のポイントをマスターしよう」：ワークシート
 - No.14 トレーニング5「友達とは違う考えを伝えるコツをマスターしよう」：ワークシート
 - No.15 トレーニング6-①「いやな気持ちにならない言い方をマスターしよう」：ワークシート
 - No.16 トレーニング7「話をうまく伝えよう」：ワークシート
 - No.17 サポート活動「スポーツ修行にチャレンジ」：個人プランニングシート
 - No.18 動機付け「楽しいピクニックになるには、どうしたらいいだろう」：ワークシート
 - No.19 サポート活動「仲良しピクニック」：個人プランニングシート
 - No.20 サポート活動「音楽交流をしよう」：個人プランニングシート
- B小学校における実践
 - No.21 サポート活動計画案
 - No.22 サポート活動「〇〇小のリーダーになるぞ」：ワークシート
 - No.23 サポート活動企画書
- C中学校における小中連携の実践
 - No.24 サポート活動「出前授業：歌声を届けよう」：企画書（教師用）
 - No.25 サポート活動「出前授業：歌声を届けよう」：企画書（生徒用）
 - No.26 サポート活動「出前授業：歌声を届けよう」：振り返りシート
- その他
 - No.27 動機付け「ようこそ後輩」：ワークシート
 - No.28 サポート活動「陸上サポート」：個人プランニングシート
 - No.29 サポート活動「陸上サポート」：振り返り用紙
 - No.30 サポート活動「紙上相談」：ワークシート1
 - No.31 サポート活動「紙上相談」：ワークシート2

これらの資料は
岡山県総合教育セ
ンターWebページ
からダウンロード
できます。



6 参考・引用文献

○参考文献

- ・ 國分康孝, 小林正幸, 相川充 (1999) 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校」図書文化社
- ・ 滝充 (2001) 「ピア・サポートではじめる学校づくり」金子書房
- ・ トレバー・コール/バーンズ亀山静子, 矢部 文訳, 森川澄男解説 (2002) 「ピア・サポート 実践マニュアル」川島書店
- ・ 森川澄男, 菱田準子 (2002) 「すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集」ほんの森出版
- ・ 石隈利紀, 田村節子 (2002) 「石隈・田村式援助シートによる チーム援助入門—学校心理学・実践編」図書文化社
- ・ 佐藤正二, 相川充 (2005) 「実践! ソーシャルスキル教育 小学校」図書文化社
- ・ 新潟県教委教育委員会 (2005) 「中1ギャップ解消調査研究事業報告書」
- ・ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2005) 「中1 不登校生徒調査 (中間報告) ~不登校の未然防止に取り組むために~」
- ・ 相川充, 佐藤正二 (2006) 「実践! ソーシャルスキル教育 中学校」図書文化社
- ・ 河村茂雄 (2006) 「いじめの発生要件と防止の手だてに関する提言」図書文化社
- ・ 栗原慎二 (2006) 岡山県教育センター「子どもの心を育む研修講座」資料
- ・ 森川澄男 (2007) ピアサポート学会「ピアサポート研修講座」資料
- ・ 岡山県総合教育センター研究紀要第1号 (2008) 「いじめや不登校を未然に防ぐためのピアサポートの導入」pp.71-96
- ・ 高階玲治編集 (2009) 「幼・小・中・高の連携・一貫教育の展開」教育開発研究所

○引用文献

- ・ 文部科学省 (2007) 「小学校 学習指導要領」p.110, p.112
- ・ 文部科学省 (2007) 「中学校 学習指導要領」p.19, p.119



平成20・21年度岡山県総合教育センター共同研究
ピアサポート研究会

指導助言者

小郷 康弘 備前市教育委員会学校教育課課長代理（平成20年度）

研究協力校

備前市立備前中学校（平成20年度）

備前市立伊部小学校（平成20年度）

研究協力委員

秋山 和規 備前市立備前中学校教諭（平成20年度）

玉谷 一生 備前市立伊部小学校教諭（平成20年度）

浅原 雅恵 倉敷市立第一福田小学校教諭（平成21年度）

竹田 悦子 真庭市立北房中学校教諭（平成21年度）

國金 弘子 総社市立総社西小学校養護教諭（平成21年度）

小野 力矢 里庄町立里庄東小学校教諭（平成21年度）

常本 直史 岡山県総合教育センター生徒指導部長

竹内 悦子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

山崎 克磨 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

橋本 淑子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

平成22年2月発行

いじめや不登校を未然に防ぐための校種間連携の在り方

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL (0866)56-9101 FAX (0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL kyoikuse@pref.okayama.lg.jp



このブックレットは、（財）福武教育文化振興財団からの助成により作成しています。